

早稲田大学デモクラシー創造研究所 レポート

「若者の価値観変容に関する調査」 分析レポート

2026年2月25日

早稲田大学デモクラシー創造研究所

一般社団法人未来政経研究所

リザプロ株式会社



WASEDA University Institute for Democratic Innovation
早稲田大学デモクラシー創造研究所

目次

はじめに

調査研究の概要

調査研究結果の概要（要約）

インタビュー調査の結果（定性調査）

アンケート調査の結果（定量調査）

考察・今後の展開

目次

はじめに

調査研究の概要

調査研究結果の概要（要約）

インタビュー調査の結果（定性調査）

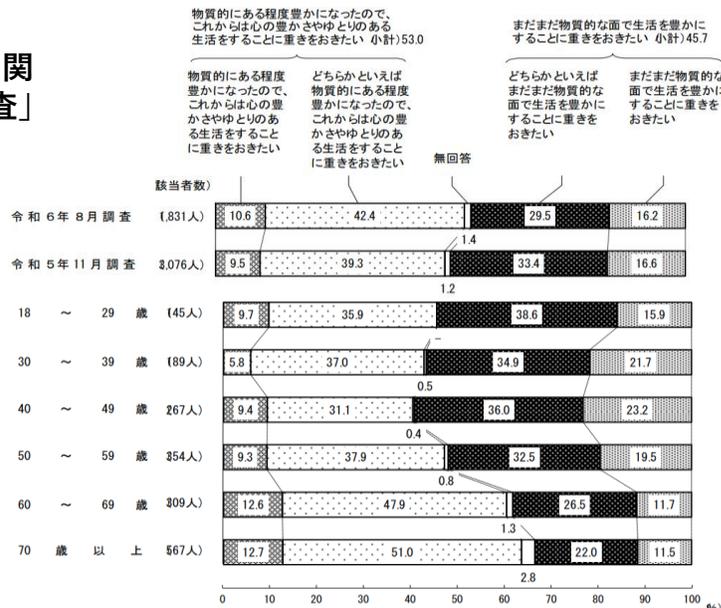
アンケート調査の結果（定量調査）

考察・今後の展開

価値が多様化し、一人一人が考え、選択する世の中に

- 社会全体として「物質的豊かさ（GDP）」から「精神的豊かさ（GDW）」を求める声が増え、近年、ウェルビーイングが重視されている
- 仕事の働き方に目を向けると、日本特有の「新卒一括採用」「年功序列」「終身雇用」が徐々に変わりつつある（「ジョブ型採用」、「実力主義」、「転職ありきの就職」）
- また、AI・デジタル技術の革新によって社会はますます便利になる一方、様々な情報や価値観に日々接することとなり、一人一人が考え、誰かが導き出した「正解」を探るのではなく、一人一人が自ら考え、選択することが求められている

「国民生活に関する世論調査」



各種公開情報より筆者作成

<https://survey.gov-online.go.jp/202412/r06/r06-life/gairyaku.pdf>、<https://www.dlri.co.jp/report/dlri/179355.html>

資料1 GDWeを構成する10の分野

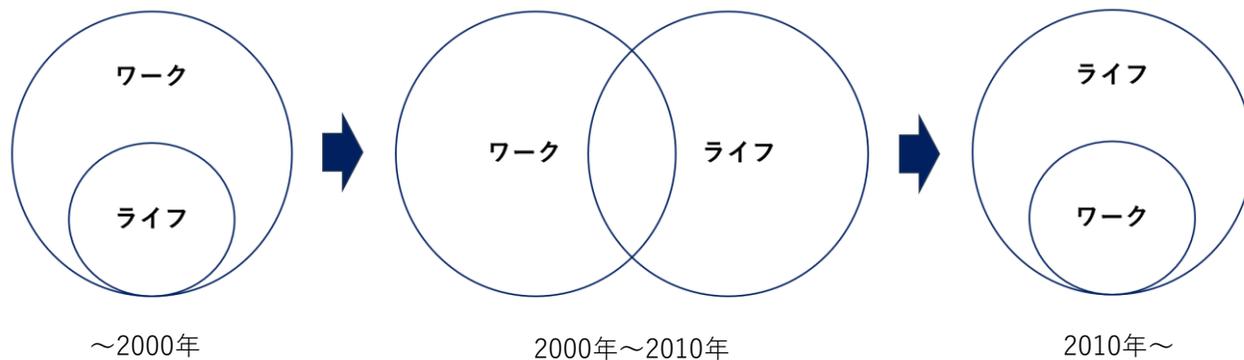
① 個人の well-being	⑥ 所得と富
② つながり	⑦ 経済
③ 健康	⑧ 知識と技能
④ 労働と余暇	⑨ 政治への信頼
⑤ 居住環境	⑩ 環境

(出所) Jennifer Wallace, Hannah Ormston, Ben Thurman, Mark Diddley, Mhairi McFarlane and Sanah Zubairi "Gross Domestic Wellbeing (GDWe)TM" (2020)
 (https://d1ssu070pg2v9i.cloudfront.net/pex/carnegie_uk_trust/2020/12/03165904/LOW-RES-4708-CUKT-GDWe-Social-Progress.pdf) P6 より翻訳し、第一生命経済研究所作成

「個人主義」が加速する一方、「貢献感」と「成長実感」を求める若者

- 2022年6月に、20代の男女を対象に、「出世欲」に関するアンケート調査を実施した結果では、20代で出世したくない人の割合は約77%を占める（転職メディア「転職サイト比較plus」より）
- 「ワークライフバランス（仕事と生活の調和）」から「ライフインワーク（生活の一部としての仕事）」に。「安定と堅実」・「コスパ・タイパ」を重視し、コロナ以降、社会において個人としての独立性や自律性を重視する傾向が強まる。この「個人主義化」が加速することで、集団よりも個人の価値観や選択を優先する考え方が広まっている
- 一方、自分の仕事や存在そのものが社会の役に立っているという感覚、自分の存在価値や存在する意味が感じられる「貢献感」と、仕事や会社生活を通じて、自分が確実に成長しているという感覚。あるいは、成長していけるという予感「成長実感」の2つを欲している（リクルートマネジメントソリューションズの調査「新入社員意識調査2022」より）

仕事と生活の考え方



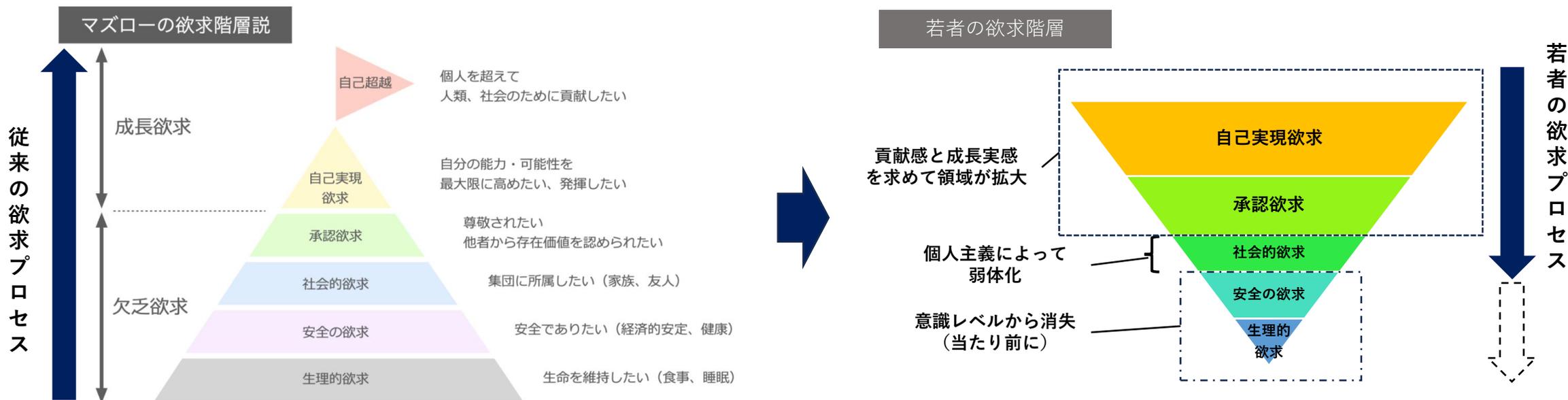
Q：あなたが仕事をする上で重視することは何ですか？当てはまるものに最大2つまでチェックを入れてください。（n=1173/2つまで複数選択）



キーワード	内容
成長	自分が成長できる
貢献	人や社会の役に立つ、感謝される
やりがい	やることの意味や意義が強く感じられる
仲間	仲間と支え合う、皆で一体となって強く取り組む
影響	世の中に影響を与える、多くの人を動かす
専門性	専門性を深める、第一人者になる
責任	責任を果たす、役割を果たす
承認	人から認められる
達成	目標を達成する
創造	新たな価値を生み出す、ゼロから創り上げる
仕事以外	プライベートの充実をはかる、仕事以外の楽しみを持つ
金銭	より多くの報酬を得る
ビジョン	自分のビジョンや夢を実現する
競争	競争に勝つ、NO.1になる

「生理的欲求」・「安全の欲求」が意識レベルから消え、「社会的欲求」は個人主義によって弱体化、「承認欲求」と「自己実現欲求」が強く意識されている

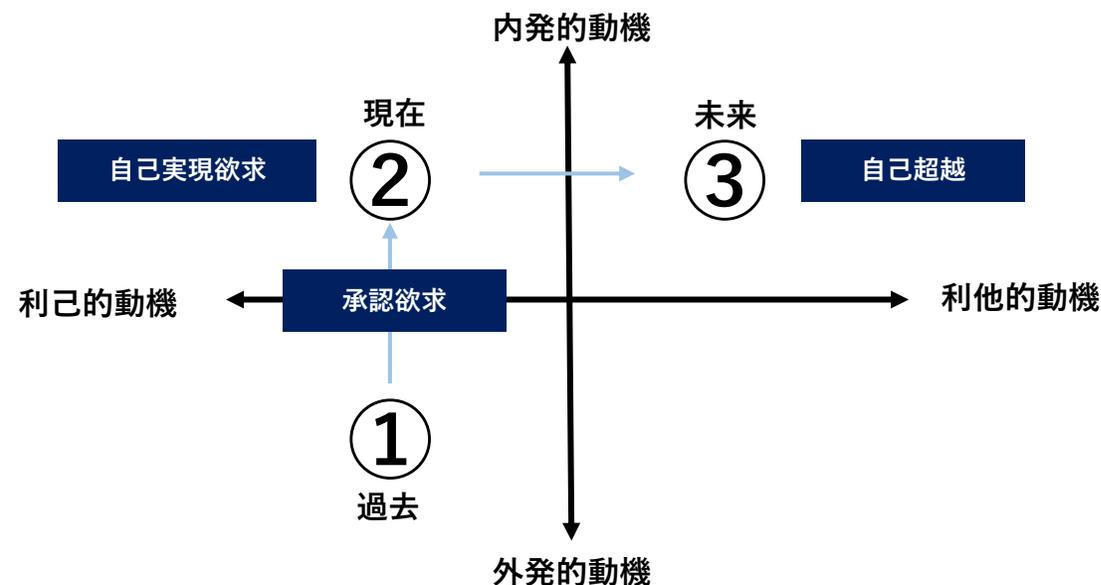
- マズローの欲求階層説によると、人間の欲求は「欠乏欲求」と「成長欲求」に分類され、計6つの欲求から成り立っている
- 従来であれば、「生理的欲求」・「安全の欲求」がまず満たされるが、衣食住に困らず治安の良い日本で育った若者にとってこれら2つの欲求は常に満たされているため、意識レベルからは消失
- また、SNSやインターネットの流行によって個人主義が加速したことで集団への帰属意識は低下（「社会的欲求」の弱体化）。一方、インフルエンサーの登場など、SNS普及の反動として他者から存在価値を認められたい「承認欲求（≡「貢献感」）」と自己の能力を最大限高めたい「自己実現欲求（≡成長実感）」が強く意識されるように



今後さらにZ世代・α世代のの欲求は、「自己実現欲求」から「自己超越」に変化し、「内発的×利他的」志向が強まるのではないか

- 「自己実現欲求」を満たす中で、個人を超えて社会のために貢献したいという「自己超越（≒パブリックマインド）」が芽生える（マズローの欲求階層説）
- 人が働く動機には、「内発的動機」「外発的動機」「利己的動機」「利他的動機」の4種類があり、それらの組み合わせによって分類が可能である
- 承認欲求→自己実現欲求→自己超越と変化する中で、その動機も①から③へと変化しており、今後さらに「内発的×利他的」志向が若者の間で強まっていくのではないか

		内に閉じた理由	外に開いた理由
		利己的動機	利他的動機
持続的 意志的 ↑ ↓ 単発的 反応的	内発的動機	<ul style="list-style-type: none"> ・人間的に成長できる ・いろいろな人に出会える ・自信がつく ・知識・経験が身につく ・真理の探究が面白い ・技能を磨くことができる ・技術を使うこと自体が楽しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんの喜ぶ顔がみたい ・この仕事には社会的使命がある ・困っている人びとを救いたい ・世の中を変えられるかもしれない ・家族が誇りを持ってくれる
	外発的動機	<ul style="list-style-type: none"> ・よい年収がもらえる ・昇格／昇進がかかっている ・世間体がいい、社会的信用がある ・それをやらないと叱られる／クビになる ・つぶれなさそうな会社である ・通勤がラク ・オフィスビルがカッコイイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・親の介護があるのでUターン就職しなければ ・子供の持病治療のためにこの土地で働こう



目次

はじめに

調査研究の概要

調査研究結果の概要（要約）

インタビュー調査の結果（定性調査）

アンケート調査の結果（定量調査）

考察・今後の展開

調査目的・リサーチクエスチョン・研究方法

調査目的

- 若者（2010年代前半生まれ）を対象に、近年顕在化している価値観の変容を実証的に明らかにすること。
- 教育における探究学習の意義の実証、大学進学支援の新たな評価軸の提示、さらには若年層の市民参加・民主的関与の可能性を探ること。

リサーチクエスチョン

- 若者は、安定、出世、物質的豊かさなどの外発的な価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的な価値観を重視しているのか
- 若者は、生理的欲求・社会的欲求より、承認欲求や自己実現欲求を重視し、前者より後者を先に満たそうとしているか（マズローの欲求ピラミッドは逆転しているか）
- 若者は、自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持っているのか

調査体制 研究方法

- 調査機関：早稲田大学デモクラシー創造研究所、未来政経研究所、リザプロ株式会社
- 調査責任者：島田 光喜（早大デモクラシー創造研究所 招聘研究員）
- 定性分析：インタビューによる仮説検証
対象：19歳～24歳の若者9名
特徴：偏差値ではなく、志望とのマッチ度合で進学を決定
- 定量分析：オリジナル設計のアンケートによる傾向測定
対象：高校生（15歳～19歳）894名
協力校：有志の協力高校（8校）

研究方法について、3つのリサーチクエスチョンに対して、定性（インタビュー）と定量（アンケート）を組み合わせることによって、調査・分析を行う

リサーチクエスチョン

分析項目

論点①

若者は、安定、出世、物質的豊かさなどの外発的な価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的な価値観を重視しているのか

論点②

若者は、生理的欲求・社会的欲求より、承認欲求や自己実現欲求を重視し、前者より後者を先に満たそうとしているか
(マズローの欲求ピラミッドは逆転しているか)

論点③

若者は、自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持っているのか

大学進路選択に影響した授業はあったか

身の回りにモデルケースとなるような人物はいたか

高校までの教育で社会課題について考える場所はあったか。

高校までにどのような課外活動を行っていたか

大学進学時・将来のキャリアそれぞれにおいて、重視することは何か

10年後に何を成し遂げたいか

マズローの欲求階層は、現在どれほど満たされているか

マズローの欲求階層のうち、今後満たしていきたい欲求はどれか

本研究には、教育制度・進路指導への政策的インパクト、民主主義と社会参加の再構築への貢献、若者理解の“精密地図”の3点において、研究の独創性と価値がある

教育制度・進路指導への政策的インパクト

若者が「偏差値」や「知名度」よりも、自分とのマッチ度や価値観を重視して大学進学を決定している実態を、アンケートおよびインタビューで可視化することで、進学指導や高校教育（特に探究型授業）の在り方に対して、下記のインパクトあり。

1. 生徒の「内発的×利他的」動機を引き出す教育が必要であることの証拠となる。
2. 学校が単なる進学実績ではなく、価値観に基づいたキャリア選択を支援すべきという提言を後押しする。
3. 総合型選抜などの進学制度の社会的正当性を強化できる。（成績以外の評価軸の重要性を定量・定性両面で実証）

民主主義と社会参加の再構築への貢献

「社会に貢献したい」「誰かの役に立ちたい」という価値観が、Z世代に内発的に育っていることが実証されれば、若者の政治的関心や市民参加を高めるための新しい道筋が見える。

1. 従来の「政治的無関心」という前提を見直し、社会課題への参加意欲の源泉を明らかにする。
2. 若年層向けの主権者教育、ボランティア促進政策、地域参画プロジェクト設計などの基盤となるデータを提供。

若者理解の“精密地図”

本研究は、定量データ（アンケート）と定性データ（インタビュー）を組み合わせることで、若者の価値観や意思決定の構造を精緻に描き出す。

1. 各種メディアや政策、教育現場において、若者を正確に理解するための“地図”として機能する。
2. これまで感覚的・印象的に語られてきた若者観を、実証研究として体系的に提示。

目次

はじめに

調査研究の概要

調査研究結果の概要（要約）

インタビュー調査の結果（定性調査）

アンケート調査の結果（定量調査）

考察・今後の展開

調査研究結果の概要（要約）

マズローの欲求ピラミッドは逆転しており、自己実現欲求（利己的×内発的）が強く見られるが、自己超越欲求（利他的×内発的）まで至っているとは言い難い調査結果となった。

論点①

若者は、安定、出世、物質的豊かさなどの外発的な価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的な価値観を重視しているのか

論点②

若者は、生理的欲求・社会的欲求より、承認欲求や自己実現欲求を重視し、前者より後者を先に満たそうとしているか（マズローの欲求ピラミッドは逆転しているか）

論点③

若者は、自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持っているのか

インタビュー調査

- 入学難易度（偏差値）や就職の強さといった「外発的動機」ではなく、学びの内容や将来キャリアとの接合、新たな出会い・可能性等の「内発的動機」によって、進路を決定している。
- 「内発的動機」が育つためには、主体的に考えたり話したりできる環境や場を用意することが有効である。

- インタビュー調査では分析対象外

- 将来のキャリアにおいては、社会課題の解決や、世の中を変えたいといった「利他的動機」ではなく、個人が「楽しい」と感じられるか、ワークライフバランス等の「利己的動機」が重視される。
- 自己実現欲求（内発的×利己的）が強くみられるが、自己超越欲求（内発的×利他的）を持っているとは言い難い。

アンケート調査

- 生活のための「所得」や「雇用の安定」など外発的な価値観が最重要視されており、それらを前提として「自己成長」や「ビジョンや夢の実現」が重視される傾向にある
- その為、外発的な価値観よりも内発的な価値観を重視しているとは言えない

- 「生理的欲求」、「安全の欲求」、「社会的欲求」はすでに満たされており、「承認欲求」、「自己実現欲求」、「自己超越欲求」を今後満たしたいと考えている。
- マズローの欲求階層は逆転しており、より高次の欲求（自己超越・自己実現・承認欲求）から満たしたいと志向していることが明らかになった。

- キャリア形成においては、「所得」や「雇用の安定」といった利己的×外発的動機と、「社会の貢献」や「成長」「ビジョンや夢の実現」といった利己的×内発的が重視されている。
- 自己実現欲求（利己的×内発的動機）までは持っていると言えるが、自己超越欲求を持っているとは言い難い。

目次

はじめに

調査研究の概要

調査研究結果の概要（要約）

インタビュー調査の結果（定性調査）

アンケート調査の結果（定量調査）

考察・今後の展開

複数の進学先がある中で最終的に進学先を決定した19歳～24歳の若者9名に対し、大学進学 of 動機、高校までの経験、将来のキャリア志向を聞くインタビューを実施した

- インタビュー協力者：9名（下記表1参照）

- 質問項目：

- ①何を重視して大学進学を決定したか。（大学進学 of 動機）
- ②大学進路選択に影響した授業はあったか。あった場合はどのような授業だったか。（大学進学 of 動機）
- ③身の回りにモデルケースとなるような人物はいたか。いた場合はどのような人物だったか。（高校までの経験）
- ④高校までの教育で社会課題について考える場所はあったか。あった場合はどのような場所だったか。（高校までの経験）
- ⑤高校までにどのような課外活動を行っていたか。（高校までの経験）
- ⑥将来のキャリアで重視することは何か。（将来のキャリア志向）
- ⑦10年後に何を成し遂げたいか。（将来のキャリア志向）

表1：インタビュー概要

#	年齢	性別	大学（所属）	進学先 of 他候補	取材日
A	20	女	APU アジア太平洋学部	-	9月1日
B	19	男	明治学院大学 経済学部	関西大学	9月19日
C	20	女	早稲田大学 文化構想学部	慶応義塾大学 総合政策学部	9月18日
D	19	男	立教大学 経済学部	明治大学	10月22日
E	22	女	横浜市立大学 医学部	東京大学 理科三類	9月19日
F	22	男	法政大学 グローバル教養学部	AIU	9月22日
G	19	女	東京都立大学 法学部	上智大学 法学部	9月19日
H	24	男	中退し、古着屋就職	慶応義塾大学 法学部	10月9日
I	22	男	岡山大学	北海道大学	10月27日

若者は、出世や物質的豊かさなどの外発的価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的価値観を重視している。一方、自己超越欲求を持っているとは言えず、自己実現欲求が強く見て取れる結果となった

リサーチクエスチョン

分析結果

論点①

若者は、安定、出世、物質的豊かさなどの外発的な価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的な価値観を重視しているのか

- 入学難易度（偏差値）や就職の強さといった「外発的動機」ではなく、学びの内容や将来キャリアとの接合、新たな出会い・可能性等の「内発的動機」によって、進路を決定（設問①）
- 「内発的動機」が育つためには、主体的に考えたり話したりできる環境や場を用意することが有効（設問②・④）

論点②

若者は、生理的欲求・社会的欲求より、承認欲求や自己実現欲求を重視し、前者より後者を先に満たそうとしているか
（マズローの欲求ピラミッドは逆転しているか）

- インタビュー調査では分析対象外（アンケート調査で分析）

論点③

若者は、自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持っているのか

- 将来のキャリアにおいては、社会課題の解決や、世の中を変えたいといった「利他的動機」ではなく、個人が「楽しい」と感じられるか、ワークライフバランス等の「利己的動機」が重視される。（設問⑥）
- 設問①と設問⑥を組み合わせると、自己実現欲求（内発的×利己的）が強くみられるが、自己超越欲求（内発的×利他的）を持っているとは言えない。

9人中6人が、入学難易度（偏差値）や就職の強さといった「外発的動機」ではなく、学びの内容や将来キャリアとの接合、新たな出会い・可能性等の「内発的動機」によって、大学進学を決定した

■ 大学進学において重視した点

凡例) **赤色**：外発的動機、**青色**：内発的動機

A：やりたいことができるかどうか

- 偏差値やネームバリューよりも「自分がやりたいことができるか」を最優先
- 外資系CA（キャビンアテンダント）になりたいという明確な目標があった
- 一般的な外国語学部ではスピーキング重視の実践的な英語教育が少ないと判断
- APUは留学生5割、日本人5割の環境で日常的に英語を話せる
- 調査した中で「日本で一番その割合が高い大学」として選択
- 偏差値、立地アクセスの良さ、就活での有利さは重視しなかった

B：新しい可能性や出会いがあるかどうか

- 和歌山出身で、関西圏に進学する人がとても多い
- 近大の付属校なので、特に近大進学者が多い
- 関西に行くと顔見知りばかりで、新しい可能性や出会いがない
- 関東進学者は少なかったため、右も左もわからない環境に突っ込んだ方が、人生にとってワクワクするのではないかと考えた

C：自分が研究したい分野の授業の充実度

- 早稲田大学では古典芸能の授業が充実していた（慶應SFCには当時少なかった）
- 自分が研究に必要な基礎的な知識が得られる環境だと考えた
- 偏差値は全く考えたことがない

D：キャンパスが綺麗で魅力的かどうか。知名度のある大学かどうか

- 大学生活を楽しみたい（塾の青山学院出身の先生の影響）
- みんなが知っている大学に行きたい（承認欲求）
- 英語力をさらに伸ばしたい

9人中6人が、入学難易度（偏差値）や就職の強さといった「外発的動機」ではなく、学びの内容や将来キャリアとの接合、新たな出会い・可能性等の「内発的動機」によって、大学進学を決定した

凡例) **赤色**：外発的動機、**青色**：内発的動機

■ 大学進学において重視した点

E：高校時代から指導を受けていた教授がその大学にいたこと。また、授業が充実していて、志高い人が多くいるかどうか

- 高校時代から横市の教授ゼミでお世話になっていた
- 大学進学してもそこに関わりたかった
- 自分がやりたいこと（＝医療に関係したこと）が実現できる最善の環境だと感じた
- 偏差値が将来に影響すると思っていなかった

F：インターンに集中できるような環境が整っているかどうか

- 秋田の山の中にある大学の閉塞感があり、外部世界との断絶による限界を感じていた
- キャリアにとって学歴より重要なものの存在に気づき、東京でのインターン（総合型選抜塾）に力を入れたいと考えた

G：学費の安さ

- 東京在住のため、都立大は学費がタダ同然であり、私立大学との学費の差が大きかった
- 学費が安くなることによって、そのお金を資格取得や留学に使いたいと考えた

H：塾チューターからの説得と親からの勧め

- 塾のチューターから「（学力があるのに）もったいない」と説得された
- いとこの母（叔母）から「文学部なんだ、勉強ができないから文学部志望なんだ」と小言を言われた
- 悔しい気持ちで法学部受験を決意

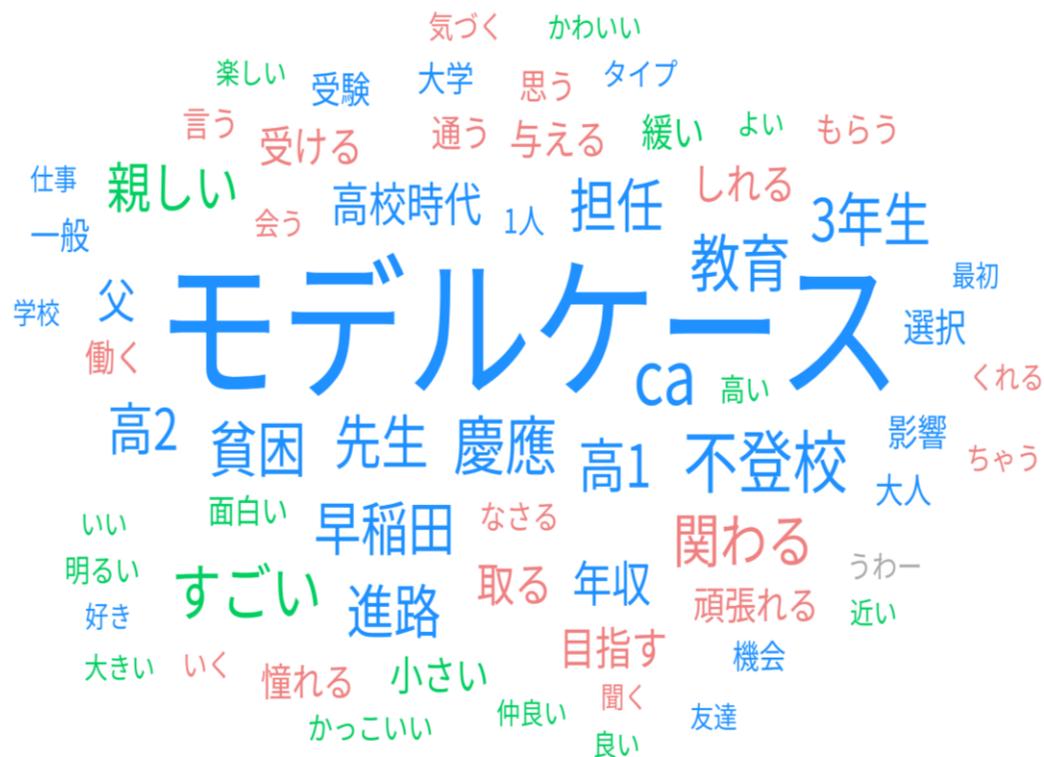
I：英語で経済学を勉強できる環境があるかどうか

- 国際バカロレア（IB）で経済学（エコノミクス）に興味を持った
- 英語で経済学を勉強できる環境を探していた
- 岡山大学グローバルディスカバリープログラムが条件に合致し、英語で学んだ後、日本語でも勉強できるオプションがあった
- 大学のブランドや偏差値、周りがどの大学に行くかは重視しなかった。

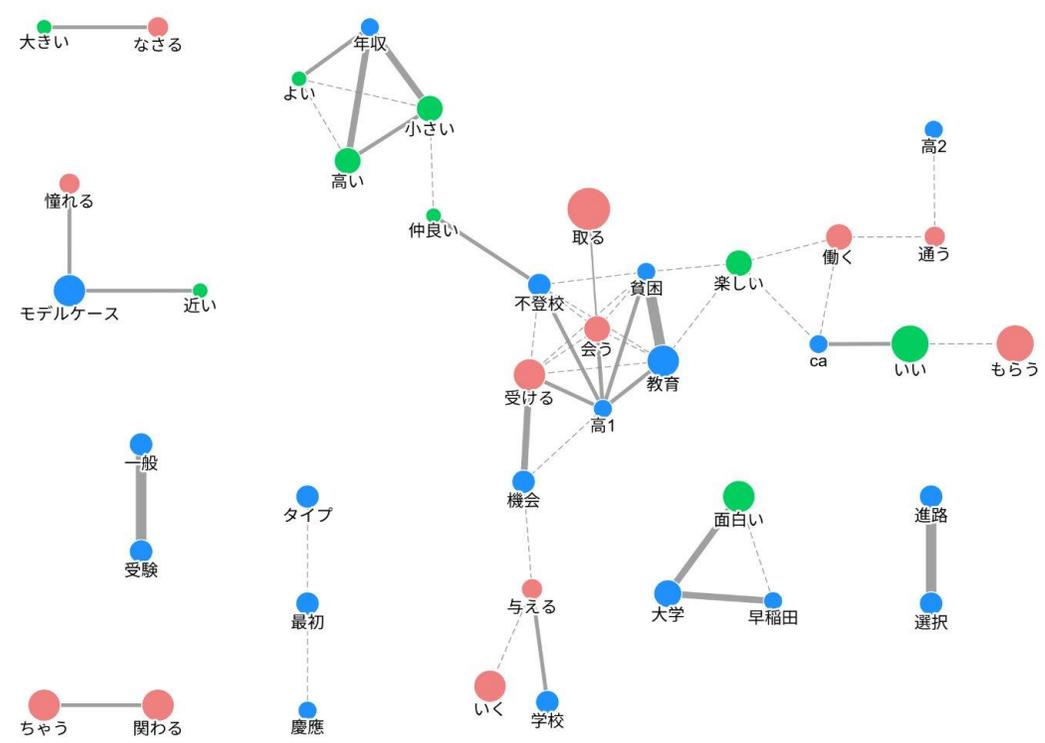
インタビュー調査の結果（定性調査） | ③身の回りにモデルケースとなるような人物はいたか。（i）

モデルケースとなった人物について、明確に「いない」と回答した参加者が複数名。一方、モデルケースに言及した回答の中では、「担任」「先生」「父」「友達」といった身近な存在を指す語が多くを占める

ワードクラウド ※青：名詞、赤：動詞、緑：形容詞形・形容動詞、灰色：感動詞



共起ネットワーク



インタビュー調査の結果（定性調査） | ③身の回りにモデルケースとなるような人物はいたか。（ii）

「物質的価値を否定する」のではなく、物質的価値 < 内的価値（自己成長・自己探求・心の豊かさ） という比重で、自分のキャリアのモデルケースを選択している可能性がある

- モデルケースとなった人物について、明確に「いない」と回答した参加者が複数名。
- 一部はモデルケースが存在するものの、身近な家族や先生・年上の先輩などが多く、人生選択に大きな影響を与えたモデルケースは少ない。

→モデルケースそのものをコピーするより、“自分の価値観に合う部分だけ”を重視し、参照する傾向がある。

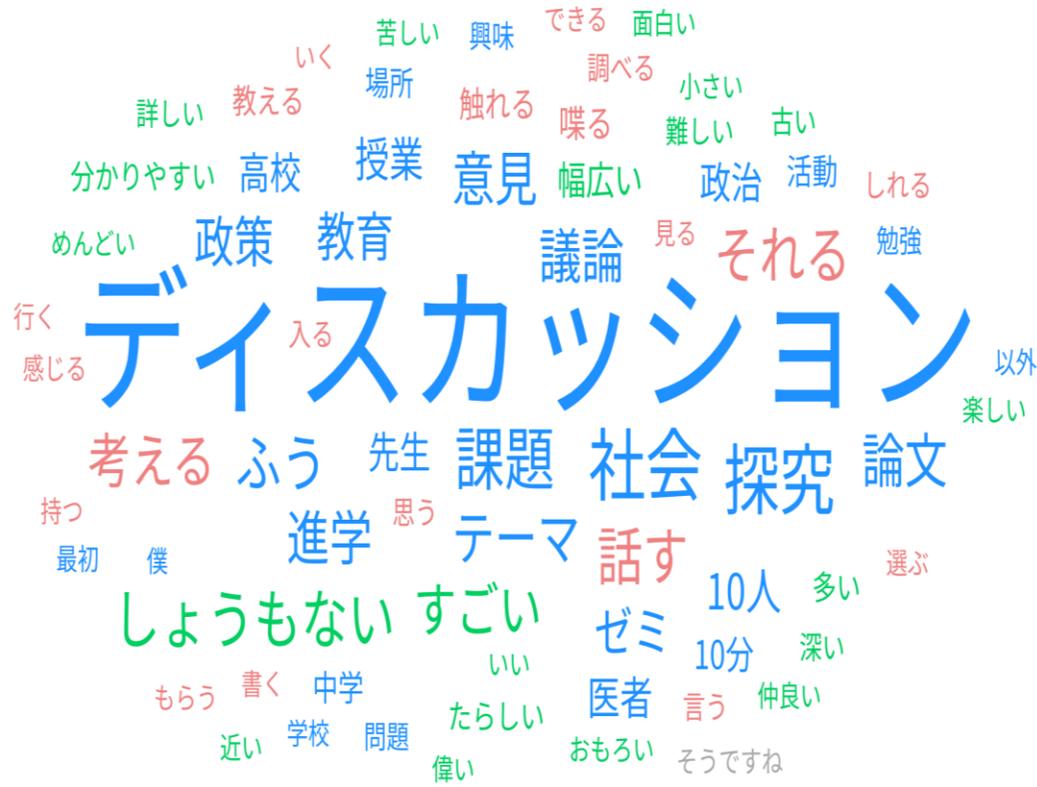
- モデルケース選択の共通点としては、働き方より“どんな自分でいたいか”を基準としており、自己成長・自己探求・心の豊かさが重視されてモデルケースが選択されている傾向あり
例) ・進路指導の先生の“面白さ”、“人柄”に惹かれる
・「好きなことをしている教授」「人生を楽しんでいるCA」への憧れ
・好きなこと・興味・楽しさ・ライフスタイルへの憧れが強い

- 一方、経済面の価値を明確に重視したり、進学での競争や“負けたくない/悔しさ”を動機としてモデルケースを選択する回答者も

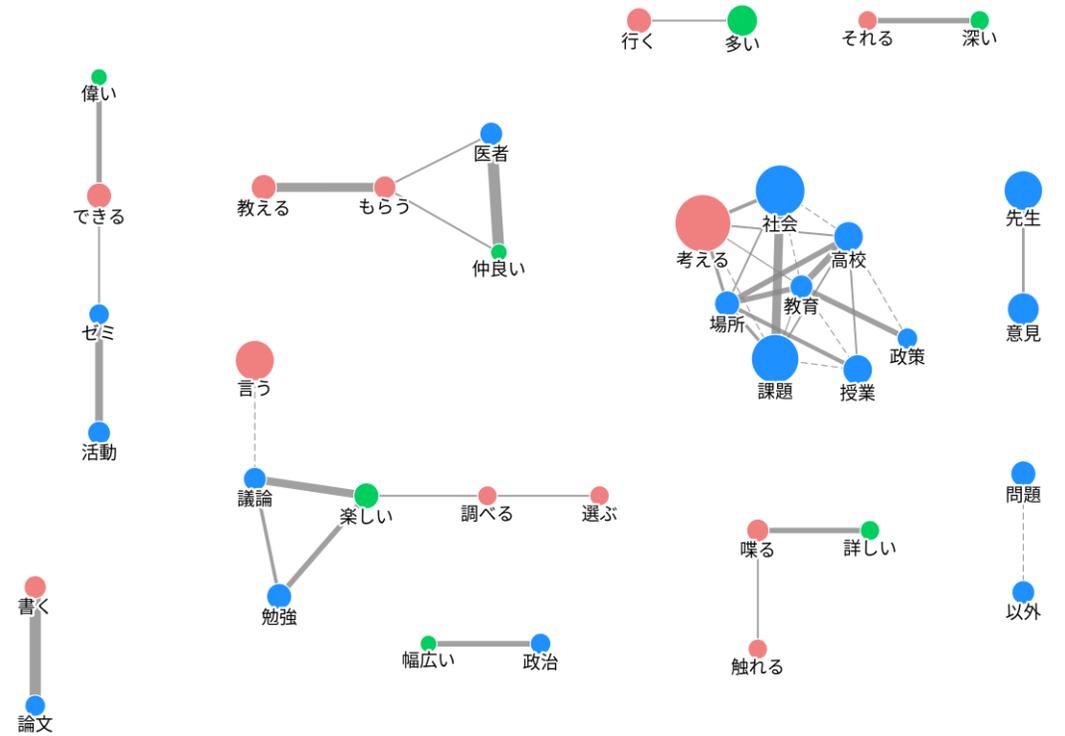
→若者の価値観は「物質的価値を否定する」のではなく、物質的価値 < 内的価値（楽しさ、納得感） という比重に変化しているのではないか。

話すこと自体が「楽しい」「面白い」という動機から、友人・家族・授業・塾などで多様な場で「ディスカッション」が行われる傾向が見て取れる

ワードクラウド ※青：名詞、赤：動詞、緑：形容詞形・形容動詞、灰色：感動詞



共起ネットワーク



インタビュー調査の結果（定性調査） | ④高校までの教育で社会課題について考える場所はあったか。（ii）

議論の場を通じて、好奇心や対話の楽しさから社会課題について考えるようになる。社会課題について考える結果として、利他的な動機が育ち、自己超越型（利他的×内発的）の学びが現れている

■ 社会課題について考える場所があったか

- 学校内に明確な「議論の場」があった：4名
例) 探究の時間、論文制作、英語教材、地域ゼミ、ディスカッション重視の学校
- 授業で触れる程度だった：3名
例) 新聞紹介10分、教科書的に触れるだけ、世界史で学ぶ
- ほぼなかった：2名
- 学校外で自主的/家族で議論した：3名
例) 父との議論、友人家族との議論、学外活動

■ 社会課題に関わる行為は、「評価のため」ではなく、「面白い・興味ある」から参加するケースが多い。教材や制度より“面白い先生・議論が好きな仲間”に触発されること、社会課題を「正解探し」ではなく、「自分の視野が広がる場」として捉えることも特徴的

■ 自己超越欲求（利他的動機×内発的動機）が見られるケース

- 地域の衰退をどうするかについて仲間と議論（B氏）
- 貧困・教育格差の問題について、有識者に自らアポイントをとって問題と向き合う（F氏）
- 医療を使って社会をよくしたいという動機で課外活動を実施（I氏）
- 排除される人たちの幸福（LGBTQ探求）について考える（H氏）

→ 誰かに「やらされる」のではなく、「気づいたら社会のために考えていた」という自然発生型の学び

→ 楽しさや興味の延長が、結果的に利他的行動につながっており、「利他的 × 内発的」 = 自己超越型の学び方を体現

インタビュー調査の結果（定性調査） | ⑤高校までにどのような課外活動を行っていたか。

学内・学外ともに、好奇心に基づいて“自分で選ぶ活動”が継続する傾向にあり、その課外活動が個人のアイデンティティ形成や、大学にて学びたい内容に直結する

- 課外活動の種類と内容（下記参照）
- 課外活動の傾向
 - 参加動機は“面白そう”“興味が湧いた”“刺さった”
 - 自分で調べ、教授や専門家に会いに行くケースなど、好奇心から行動に移す事例が多い
 - **部活や学校の枠組みより、自分で選びとった活動がアイデンティティ形成に強く影響する**
- **“やらされる活動”はほぼ刺さらず、“自分で選ぶ活動”が継続する**
 - 高校の探究活動は「覚えていない」、「義務だからやっただけ」という声あり
 - 興味で始めた活動は継続度が高く、活動が深くなる

課外活動の種類	内容
①学内での体系的な活動	✓ 研究活動（古典芸能研究）／探究活動（探究・論文制作） ✓ 地域ゼミ・水産ゼミ・生徒会 ✓ 学会参加・武部ゼミ・医療系探究
②学校外の活動への参加	✓ ボランティア（子ども食堂・清掃）、イングリッシュキャンプ ✓ 学会参加 ✓ 家族との議論、他家庭でのディスカッション
③アルバイト	✓ バイトのみ、渋谷イベントによる多様な人との接触
④部活動中心	✓ サッカー漬けで課外活動の余裕なし、ただし憧れは海外ボランティア
⑤課外活動なし	✓ 探究以外の活動ゼロ、遊びに時間を使う

将来のキャリアにおいては、社会課題の解決や、世の中を変えたいといった「利他的動機」ではなく、個人が「楽しい」と感じられるか、ワークライフバランス等の「利己的動機」が重視される傾向にある

■ 将来のキャリアで重視する点

凡例) 赤色：利他的動機、青色：利己的動機

A：楽しく働けること

- バイトの掛け持ち経験から学んだ価値観
- 時給の良さより職場環境の良さを重視するように変化
- 「仕事に行きたくないと思って仕事に行く社会人にはなりたくない」
- 収入面の希望
平均年収（450万円）より少し上の600万円程度を希望
「1000万円稼げるなら稼いでみたい」という意欲もある
- 国際志向の継続
- いろんな国の人と話し、多様な価値観を得たい
- APUでの経験により「日本人以外の人との関わりで常識が崩れていく面白さ」を実感
- 将来の自分のビジョンを考えるための経験として重視

B：選択肢がある状態にいること

- 年収や仕事の場所、規模や職種はあまり気にしない。
- 心が動く瞬間を大事にしたいため、自分自身の健康を保てることが最低限の条件
- 選択肢があるという状態が大事（選ぶかどうかはいつでもいいが、選べるというのは重要）

C：一定水準以上の賃金、古典芸能の現状に関われるか

- 大学院（修士課程）進学予定（高校時代から決めていた）
- 研究ではなく、現場への関与がしたい。（古典芸能を「なくならないように」したい）
- 価値観の変遷
高校時代～大学1年：「いいところに就職してめっちゃお金稼いでめっちゃ見よう」
大学2年以降：「そういう問題じゃない」と気づく
60年後も見られるために今やれることをやる

将来のキャリアにおいては、社会課題の解決や、世の中を変えたいといった「利他的動機」ではなく、個人が「楽しい」と感じられるか、ワークライフバランス等の「利己的動機」が重視される傾向にある

■ 将来のキャリアで重視する点

凡例) 赤色：利他的動機、青色：利己的動機

D：ライフワークバランスが取れていること。仕事を通じて社会と繋がっていることが実感できるか

• 働き方/福利厚生

転勤は避けたい（家族を大切にしたい）

結婚願望・子供が欲しいという希望がある

平均的に稼げて、福利厚生が充実していればよい

定年まで働くことに抵抗はなく、早期リタイアも考えていない

• 働く理由

「人と関わっていたい」という思いが根底にあり、たとえお金に困らなくても働いていたい、仕事を通じて社会とつながっていたい

E：現場だけで終わらず、社会全体の課題を解決したい。ライスワーク（稼ぐ仕事）とライフワーク（やりたいこと）を分けて

• 絶対に臨床医で終わらない

健康意識を上げたいという目的で医学部に入ったが、予防ができていない現状がある

現場で嘆くだけでなく、日常的に臨床で持った疑問・課題点を政策で働いたり、ビジネス立ち上げたりしたい

• ライスワークとライフワークを分ける

高校の時まではやりたいことだけやればいいと思っていたが、そうはいかない現実を知った

ライスワーク（稼ぐ仕事）とライフワーク（やりたいこと）を分けて、それぞれ何をするか今手探りで探している

• 不確実性への不安

選択肢が絞られることより、不確実性に対する不安の方が大きい

人生100年だと考え、若い時にしかできないことを終わらせておきたい

将来のキャリアにおいては、社会課題の解決や、世の中を変えたいといった「利他的動機」ではなく、個人が「楽しい」と感じられるか、ワークライフバランス等の「利己的動機」が重視される傾向にある

■ 将来のキャリアで重視する点

凡例) 赤色：利他的動機、青色：利己的動機

F：楽しいこと、充実感があること

- 「やったんだ」「こうなれるんじゃないか」「すごいな」という実感がほしい
- 無味乾燥ではなく、ダイナミックでなくても実感と充実感がある仕事がしたい
- 働く場所や職種、組織には特にこだわりはない
- 社会的地位や肩書きは欲しいが、強い執着はなく、高い車、高い時計、高価なものへの強い欲求はない

G：ライフワークバランスが取れていること

- 仕事中心の人生にしたくなく、私生活も大事にできるキャリアにしたい
- 「置かれた場所で咲きたい」
- 転職・キャリアアップ
転職可能な企業を選びたい、次の会社に進みやすい企業で学びたい
- キャリアを考え始めた時期
高校時代から「めちゃくちゃ忙しい仕事は嫌」と思っていた
法学部進学後、自然と絞られてキャリアを考えるようになった
周りの友達も将来のことをしっかり考えているため影響を受けた

H：楽しいと思えるか

- 週2の休みより、週7楽しい方が良く考えている
- 裕福ではなくとも、自分がやりたいこと（オーナーをやれる古着屋を持つ）ができる生活が理想

将来のキャリアにおいては、社会課題の解決や、世の中を変えたいといった「利他的動機」ではなく、個人が「楽しい」と感じられるか、ワークライフバランス等の「利己的動機」が重視される傾向にある

■ 将来のキャリアで重視する点

凡例) 赤色：利他的動機、青色：利己的動機

I：経済的自立、ワークとライフの両立

• 経済的自立

まずは親の補助なしで自分の力で生きられるようになりたい

• ワークとライフの両立

「ここまで来たらもういいや」と思うが、また次の目標ができる

「やめどきがわからない」「結果が出ちゃうから頑張らざるを得ない」

• 行動原理の源泉:

IBで英語が一番できない中で2位を取った成功体験

「不可能ってなくない？」という価値観があり、結果が出る→挫折していない→続けてしまう

何かに一生懸命毎日取り組むことを続けたい

• モチベーション:

いろいろチャレンジするのでネガティブなことを言われることもある

そういう人たちを見返したいという気持ちが原動力であり、ネガティブな感情の方が頑張れる

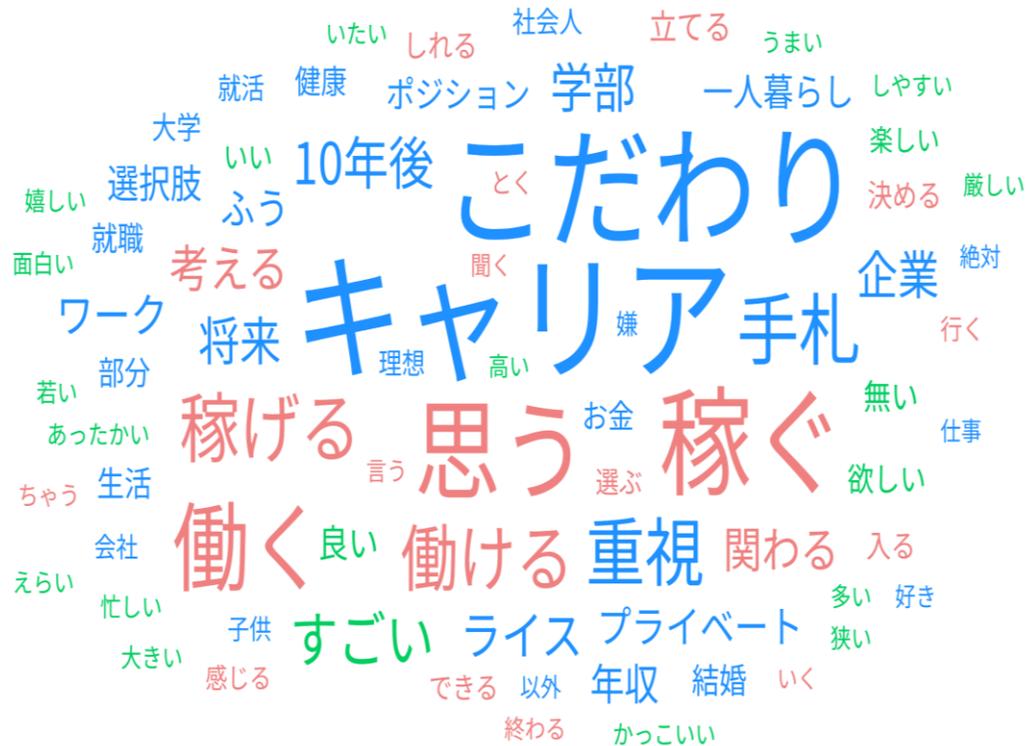
大学進学時には「内発的動機」を重視する一方、将来のキャリアでは「利己的動機」が重視される。このことから、「自己実現欲求（内発的動機×利己的動機）」が強まっている可能性が見てとれる

#	大学進学時に重視すること（青：内発的、赤：外発的）	× 将来のキャリアで重視すること（青：利己的、赤：利他的）
A	✓ やりたいことができるかどうか	✓ 楽しく働けること
B	✓ 新しい可能性や出会いがあるかどうか	✓ 選択肢がある状態にいること
C	✓ 自分が研究したい分野の授業の充実度	✓ 一定水準以上の賃金 ✓ 古典芸能の現状・課題を解決できるか
D	✓ キャンパスが綺麗で魅力的かどうか ✓ 知名度のある大学かどうか	✓ ライフワークバランスが取れていること ✓ 仕事を通じて社会と繋がっていることが実感できるか
E	✓ 高校時代から指導を受けていた教授がその大学にいたこと。 ✓ また、授業が充実していて、志高い人が多くいるかどうか	✓ 現場だけで終わらず、社会全体の課題を解決したい ✓ ライスイワーク（稼ぐ仕事）とライフワーク（やりたいこと）を分けたい
F	✓ インターンに集中できるような環境（=やりたいことに熱中できる）が整っているかどうか	✓ 楽しいこと、充実感があること
G	✓ 学費の安さ	✓ ライフワークバランスが取れていること
H	✓ 塾チューターからの説得と親からの勧め	✓ 楽しいと思えるか
I	✓ 英語で経済学を勉強できる環境があるかどうか	✓ 経済的自立、ワークとライフの両立

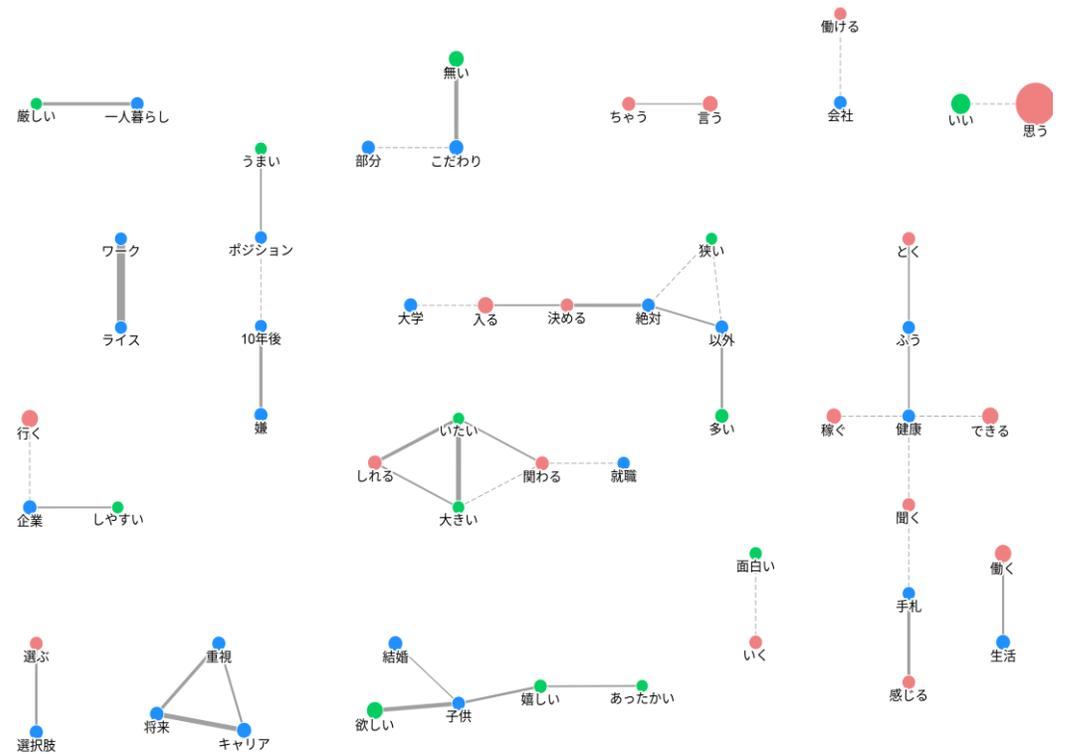
インタビュー調査の結果（定性調査） | ⑦将来（10年後）のキャリアで何を成し遂げたいか。

強い「こだわり」は「無い」が、「結婚」と「子ども」のライフと「働く」「稼げる」「稼ぐ」といったワークの狭間で葛藤し、「キャリア」における「選択肢」「手札」を残しておきたいと考えている

ワードクラウド ※青：名詞、赤：動詞、緑：形容詞形・形容動詞、灰色：感動詞



共起ネットワーク



目次

はじめに

調査研究の概要

調査研究結果の概要（要約）

インタビュー調査の結果（定性調査）

アンケート調査の結果（定量調査）

考察・今後の展開

国内の高校生894名（15歳～19歳）に対し、マズローの欲求に対する認識と、大学進学への動機、将来のキャリア志向を聞くアンケート調査を実施した

■ 調査概要：

調査機関：早稲田大学デモクラシー創造研究所、一般社団法人未来政経研究所、リザプロ株式会社

日時：2026年10月30日（木）～12月7日（日）

調査手法：有志の協力高校（8校）へのネットアンケート調査

サンプル数：N = 894名（15歳～19歳の高校生）

■ 質問項目：

①性別、年齢、世帯別人数、両親の学歴

①あなたは、高校生活においてマズローの6つの欲求がどれほど満たされていると思いますか。 ※5段階評価
（生理的欲求、安全の欲求、社会的欲求、承認欲求、自己実現欲求、自己超越欲求）

②6つの欲求のうち、あなたが日常生活において、満たされていると思っているものは何ですか。（最大3つまで選択）

③6つの欲求のうち、あなたが今後、満たしていきたいと思っているものは何ですか。（最大3つまで選択）

④あなたが大学進学の際に重視することは何ですか。（最大3つまで選択）

⑤あなたが将来のキャリアで重視することは何ですか。（最大5つまで選択）

マズローの欲求ピラミッドは逆転し、より高次の欲求から満たしたいと考えている。一方、外発的な価値観が一定重視されており、若者が自己超越欲求を持っているとは言い難い結果となった

リサーチクエスチョン

分析結果（全体）

論点①

若者は、安定、出世、物質的豊かさなどの外発的な価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的な価値観を重視しているのか

- 生活のための「所得」や「雇用の安定」など外発的な価値観が最重要視されており、それらを前提として「自己成長」や「ビジョンや夢の実現」が重視される傾向にある（設問⑥）
- 外発的な価値観よりも内発的な価値観を重視しているとは言えない

論点②

若者は、生理的欲求・社会的欲求より、承認欲求や自己実現欲求を重視し、前者より後者を先に満たそうとしているか
（マズローの欲求ピラミッドは逆転しているか）

- 「生理的欲求」、「安全の欲求」、「社会的欲求」はすでに満たされており、「承認欲求」、「自己実現欲求」、「自己超越欲求」を今後満たしたいと考えている（設問①・②・③）
- マズローの欲求階層は逆転しており、より高次の欲求（自己超越・自己実現・承認欲求）から満たしたいと志向していることが明らかになった

論点③

若者は、自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持っているのか

- 大学進学においては、「学びの内容」と「就職の強さ」の間でバランスをとって進路を決定している（設問⑤）
- キャリア形成においては、「所得」や「雇用の安定」といった利己的×外発的動機と、「社会の貢献」や「成長」「ビジョンや夢の実現」といった利己的×内発的が重視されている（設問⑥）
- 自己実現欲求（利己的×内発的動機）までは持っていると言えるが、自己超越欲求を持っているとは言い難い

男女で比較すると、男性よりも女性の方がすべての階層において欲求が満たされており、「ビジョンや夢を実現する」、「人や社会の役に立つ、感謝される」といった自己実現・自己超越をより重視している

リサーチクエスチョン

分析結果

論点①

若者は、安定、出世、物質的豊かさなどの外発的な価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的な価値観を重視しているのか

- 大学進学において、男性は女性よりも「就職の強さ」を重視している一方、女性は男性よりも「学びの内容」を重視している。また、女性は「大学の雰囲気やカラー」を「就活の強さ」と同程度重視している。
- 将来のキャリアにおいて、男性と比べて女性の方が「ビジョンや夢を実現する」、「人や社会の役に立つ、感謝される」といった自己実現・自己超越を重視している。

論点②

若者は、生理的欲求・社会的欲求より、承認欲求や自己実現欲求を重視し、前者より後者を先に満たそうとしているか
（マズローの欲求ピラミッドは逆転しているか）

- 生理的欲求から自己超越欲求のすべての欲求階層において、女性の方が男性よりも「どちらかと言えば満たされている」・「とても満たされている」と回答している割合が高い。
- 男性よりも女性の方が高次の欲求（自己実現欲求・自己超越欲求）をより優先的に満たしたいと考える傾向がある。

論点③

若者は、自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持っているのか

- 約30%弱の高校生が「自己実現欲求」を、約20%の高校生が「自己超越欲求」を満たしたいと考えている。
- 一方、自己超越欲求を具体的な行動にまで落とし込んでいる若者は男女問わず少なく、自己実現欲求レベルで止まっている。

年齢に関係なく、若者のキャリア観は「お金」や「安定」といった物質的豊さを前提とした上で、「成長」や「夢・ビジョンの実現」といった内発的価値観、自己実現欲求を重視している

リサーチクエスチョン

分析結果

論点①

若者は、安定、出世、物質的豊かさなどの外発的な価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的な価値観を重視しているのか

- 15～18歳で分布はほぼ安定しており、キャリア観の基本構造は大きく変わらない。
- 「お金」や「安定」などの外発的×利己的動機が前提となりつつも、「成長」や「夢の実現」などの内発的×利己的動機も同程度に重視されている。

論点②

若者は、生理的欲求・社会的欲求より、承認欲求や自己実現欲求を重視し、前者より後者を先に満たそうとしているか
（マズローの欲求ピラミッドは逆転しているか）

- どの年代も、低次の欲求（生理的欲求・安全の欲求・社会的欲求）が満たされている人が全体の約80%を占めている
- いずれの年齢でも、今後見たいしたい欲求として「自己実現欲求」「自己超越欲求」を掲げており、高校生は早い段階から『生き方』や『成長』に関わる欲求を重視している。

論点③

若者は、自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持っているのか

- 年齢が上がるにつれて「入学難易度」や「ネームバリュー」といった外発的な動機を重視する割合が増え、逆に「大学の雰囲気・カラー」や「学びの内容」などの内発的な動機が重視されなくなっている。
- 「お金」や「安定」などの外発的×利己的動機が前提となりつつも、「成長」や「夢の実現」などの内発的×利己的動機も同程度に重視されている。
- 自己超越欲求ではなく、自己実現欲求が強く意識されている。

親の学歴で比較すると、親の学歴が高いほど、子どもが内発的動機を重視する傾向が見られるが、「より良いお金」や「安定」「自己成長」といった利己的動機は学歴に関係なく重視されている

リサーチクエスチョン

分析結果

論点①

若者は、安定、出世、物質的豊かさなどの外発的な価値観よりも、自己成長、内面的充足といった内発的な価値観を重視しているのか

- 両親の学歴に関係なく、全体的に「より良いお金」や「安定」「自己成長」といった利己的動機が重視され、社会貢献や意義などの自己超越的「内発的×利他的動機」を強く重視する層は少数である。

論点②

若者は、生理的欲求・社会的欲求より、承認欲求や自己実現欲求を重視し、前者より後者を先に満たそうとしているか
（マズローの欲求ピラミッドは逆転しているか）

- 父親の学歴が短期大学以上になると生理的欲求と安全の欲求、社会的欲求の満足度に差は見られない。一方、母親の学歴については、高ければ高いほど、生理的欲求と安全の欲求が満たされている傾向が見られる。
- 父母共に親に学歴が高い層ほど「自己実現」「自己超越」の比重が高く、低い層では「生理的欲求」「安全の欲求」の比重が高まっている。

論点③

若者は、自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持っているのか

- 親の学歴が高いほど、子どもが大学進学の際に「学びの内容」を重視する傾向が見られる。また、親の学歴が低いほど「学費・奨学金」「アクセス」「入試制度」などの制度的条件が相対的に重視される。
- 親の学歴が高いほど内発的動機を持つが、利他的動機は学歴に関係なく少数。

アンケート調査の結果（定量調査） | ①高校生活においてマズローの6つの欲求がどれほど満たされていると思うか。（全体）

高校生活において、**社会的欲求（家族や友人など何らかの集団に所属する）**が最も満たされており、**自己超越欲求（社会や他者の為に自分の力を使う、役に立つ）**が最も満たされていない結果となった

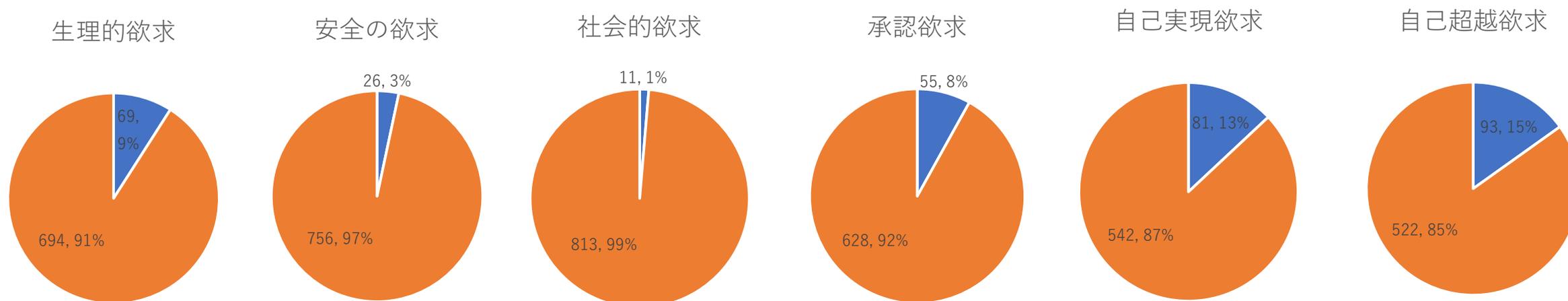
■ 設問：

Q.高校生活においてマズローの6つの欲求がどれほど満たされていると思うか。（5段階評価）

1：全く満たされていない、2：どちらかと言えば満たされていない、3：どちらとも言えない、

4：どちらかと言えば満たされている、5：とても満たされている

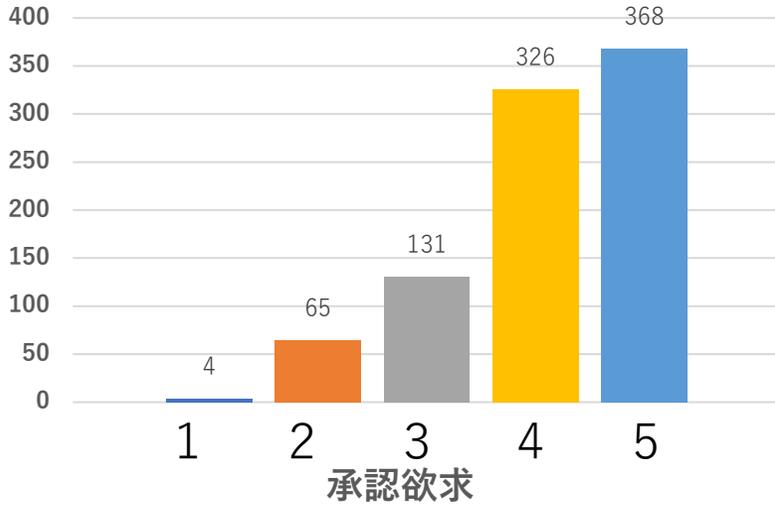
■ サマリー 凡例) オレンジ：満たされている（4+5）、青：満たされていない（1+2）



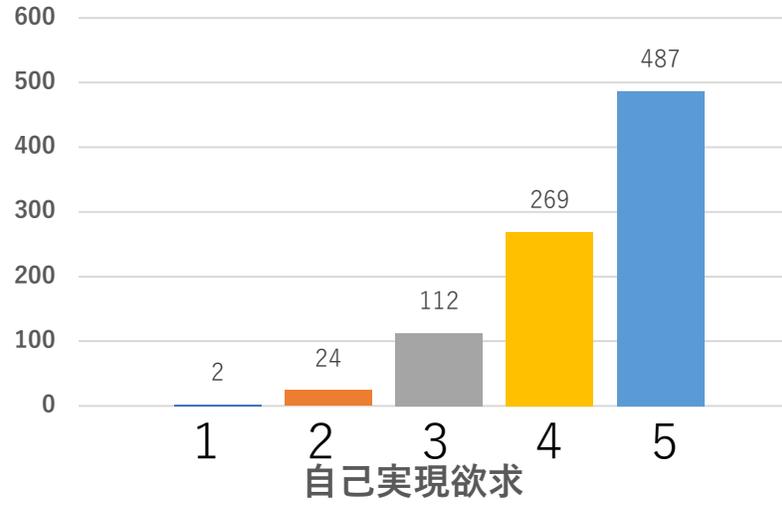
- **最も満たされている欲求は社会的欲求（家族や友人など何らかの集団に所属する）であり、最も満たされていない欲求は自己超越欲求（社会や他者の為に自分の力を使う、役に立つ）となった。**
- 概ね、マズローが定める高次の欲求（承認欲求、自己実現欲求、自己超越欲求）になればなるほど、満たされていない傾向にあるが、低次の生理的欲求についても満たされていないと回答したものが承認欲求と同じ割合で存在する。

参考：アンケート回答結果

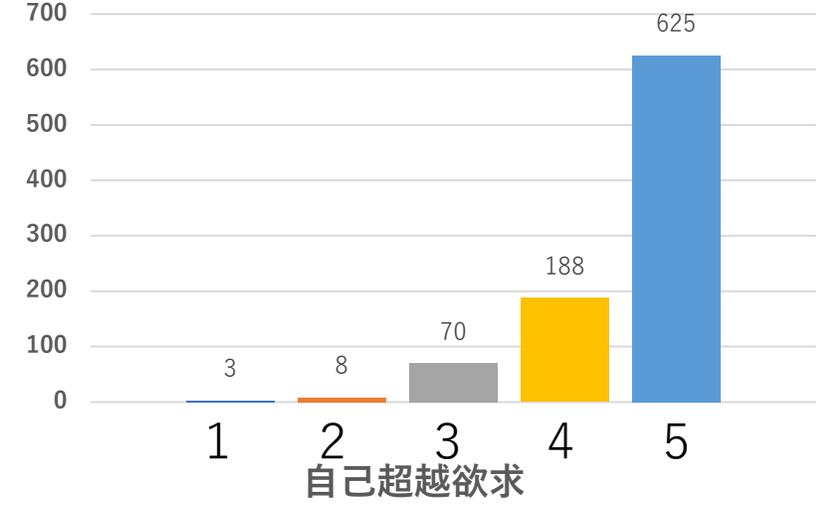
生理的欲求



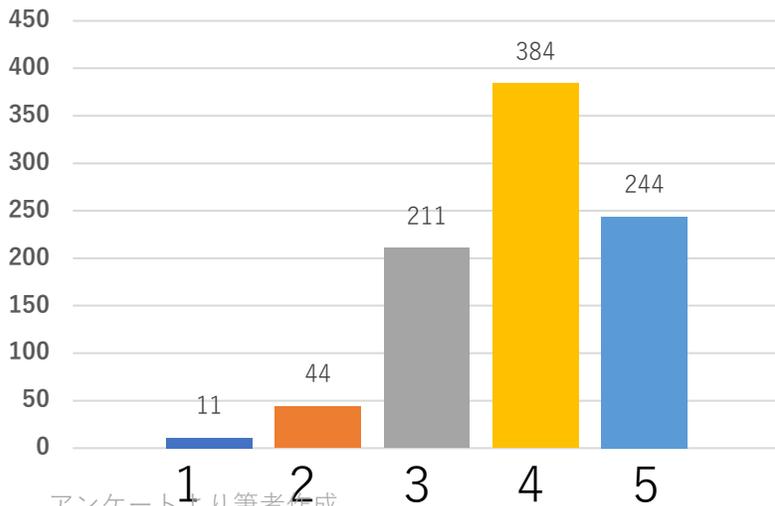
安全の欲求



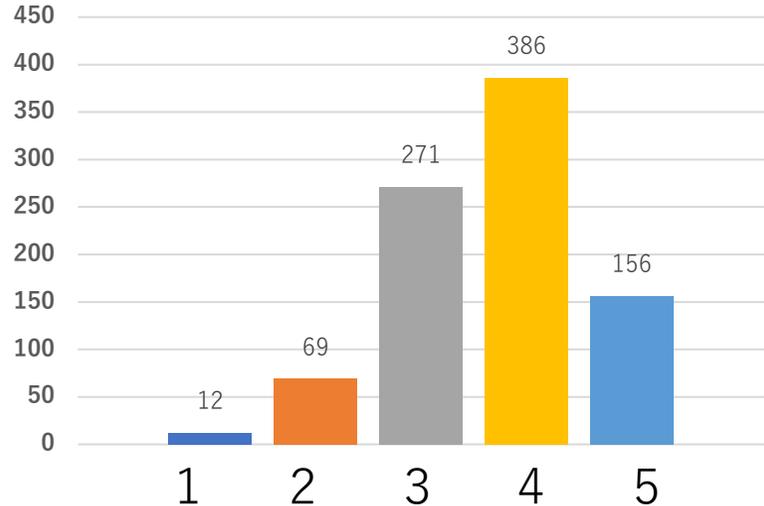
社会的欲求



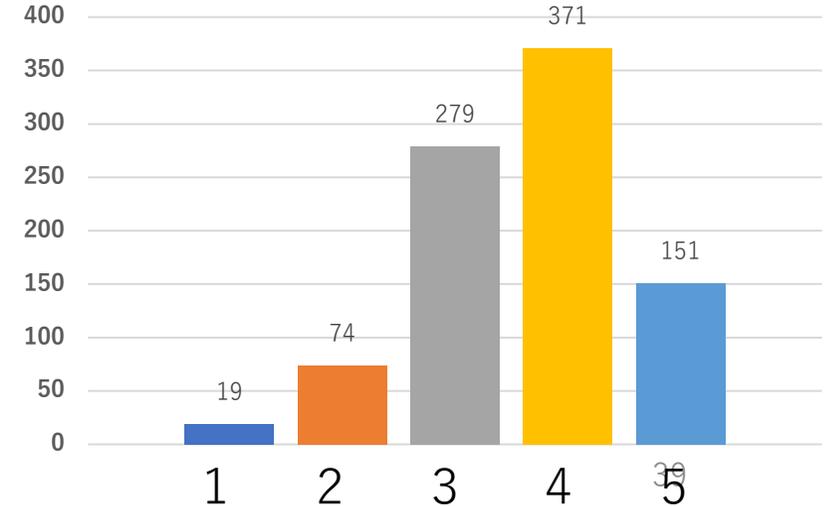
承認欲求



自己実現欲求



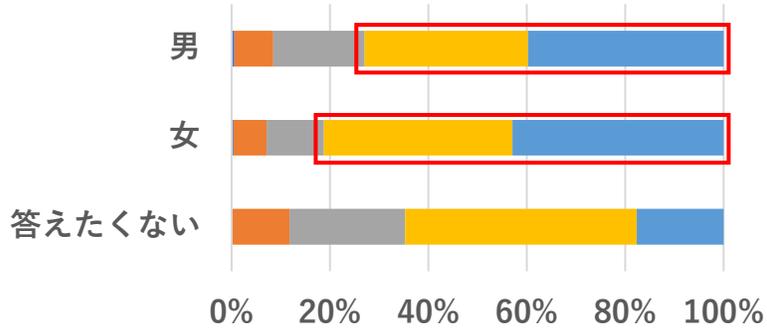
自己超越欲求



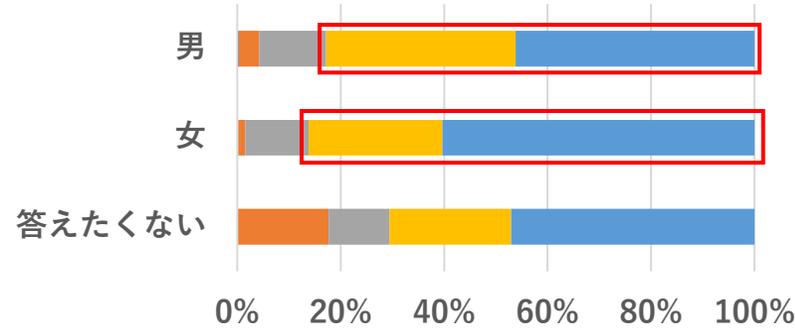
アンケート調査の結果（定量調査） | ①高校生活においてマズローの6つの欲求がどれほど満たされていると思うか。（クロス集計）

男性と女性を比較すると、生理的欲求から自己超越欲求のすべての欲求階層において、女性の方が男性よりも「どちらかと言えば満たされている」・「とても満たされている」と回答している割合が高い

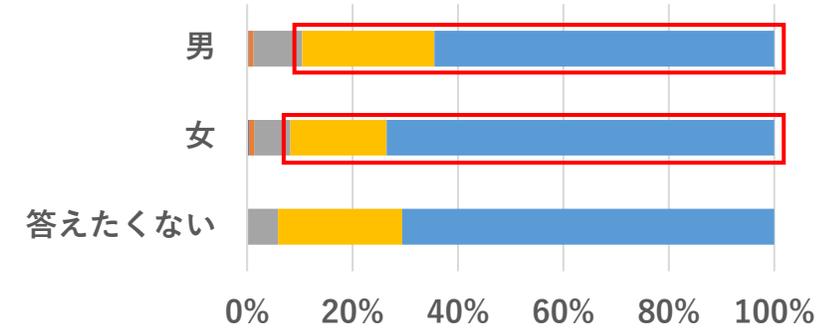
生理的欲求



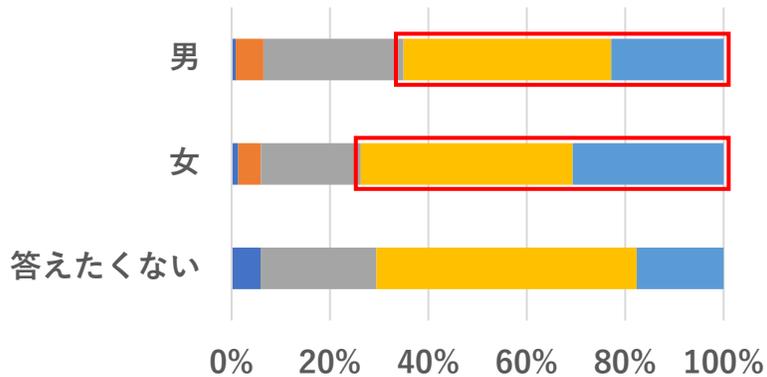
安全の欲求



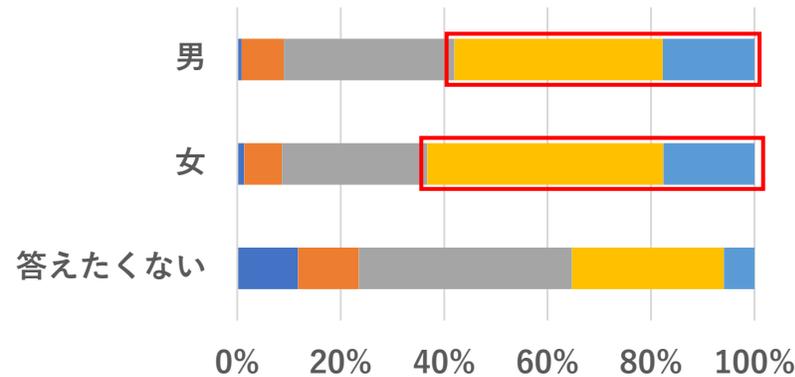
社会的欲求



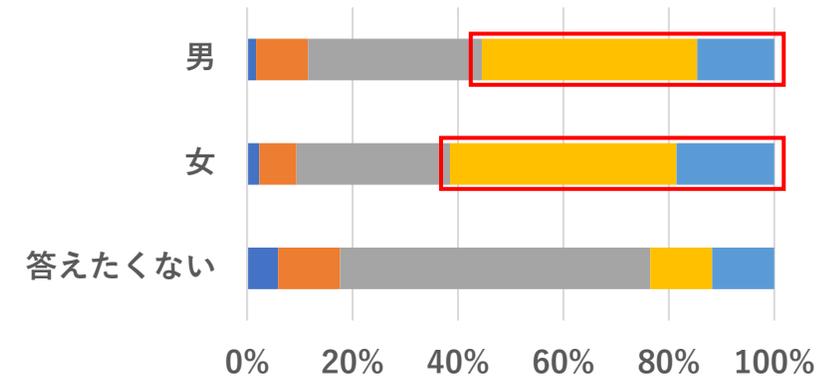
承認欲求



自己実現欲求



自己超越欲求

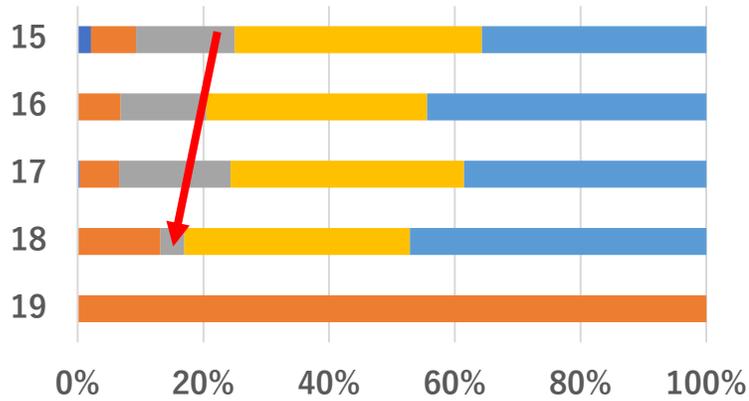


■ 全く満たされていない ■ どちらかと言えば満たされていない ■ どちらとも言えない
■ どちらかと言えば満たされている ■ とても満たされている

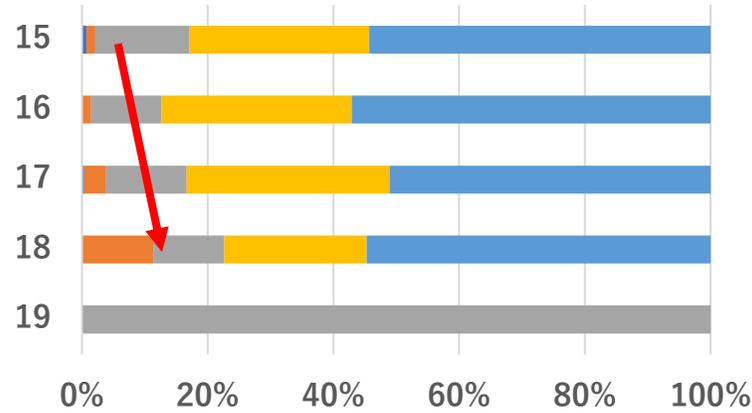
アンケート調査の結果（定量調査） | ①高校生活においてマズローの6つの欲求がどれほど満たされていると思うか。（クロス集計）

概ね年齢が上がるにつれて満たされている割合が高まるが、「安全の欲求」と「自己超越欲求」については年齢が上がるにつれて満たされていない割合が高まっていることが見て取れる

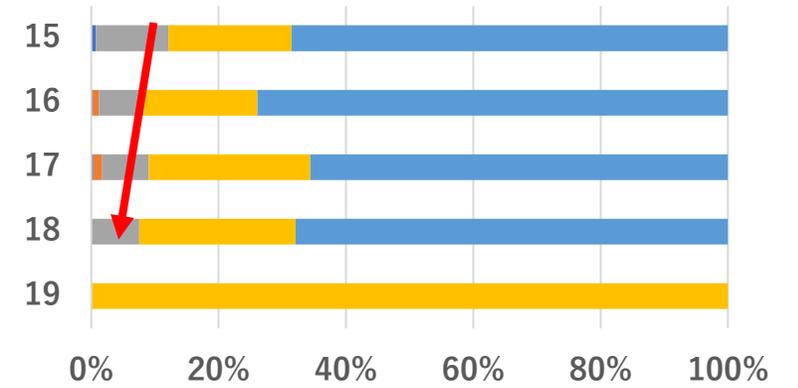
生理的欲求



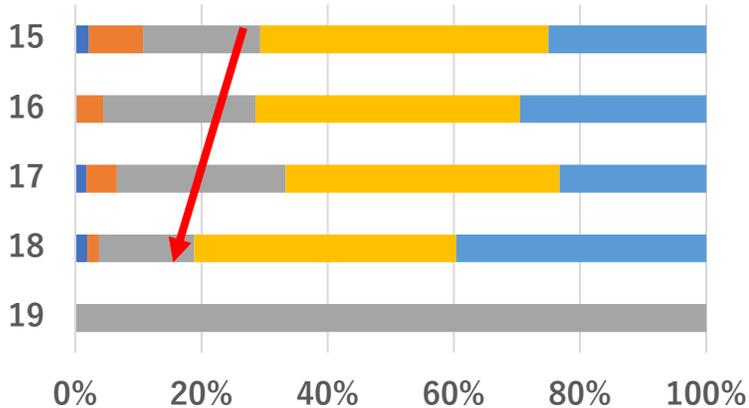
安全の欲求



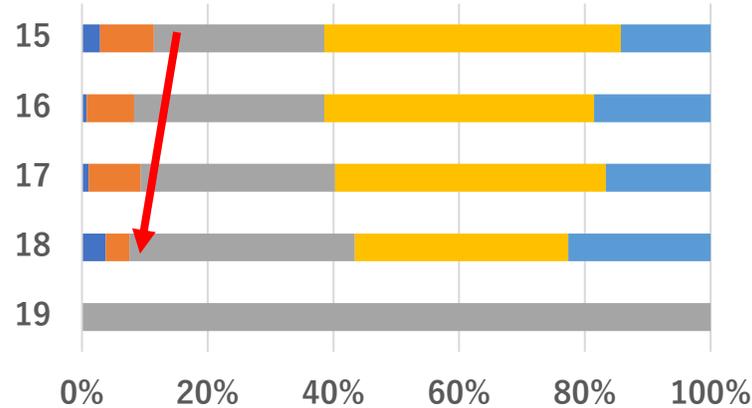
社会的欲求



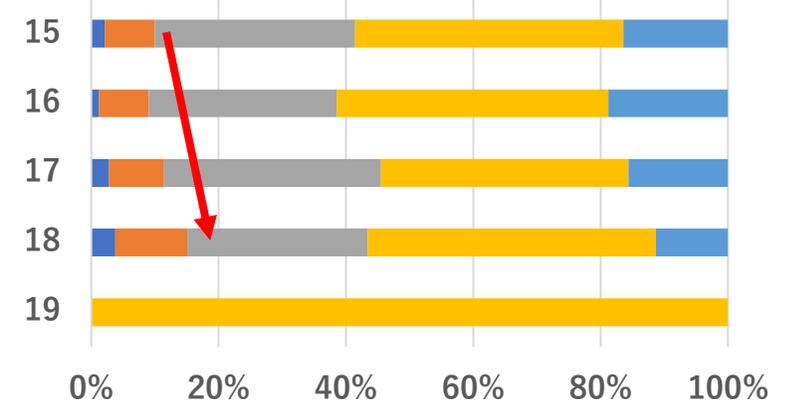
承認欲求



自己実現欲求



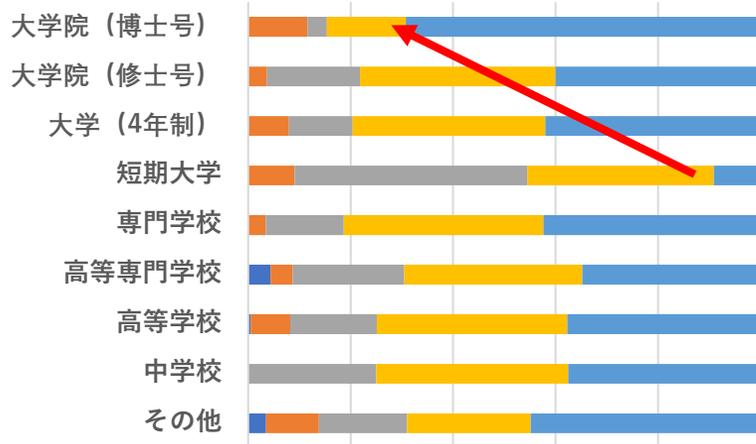
自己超越欲求



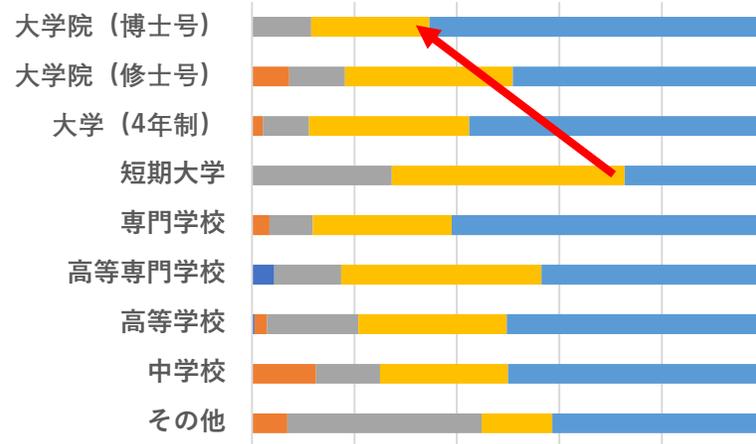
■ 全く満たされていない
 ■ どちらかと言えば満たされていない
 ■ どちらとも言えない
■ どちらかと言えば満たされている
 ■ とても満たされている

父親の学歴が短期大学卒以上の層においては、自己超越欲求を除くすべての欲求階層で、学歴が高ければ高いほど、強い満足度を持つ割合が高まる傾向が見て取れる

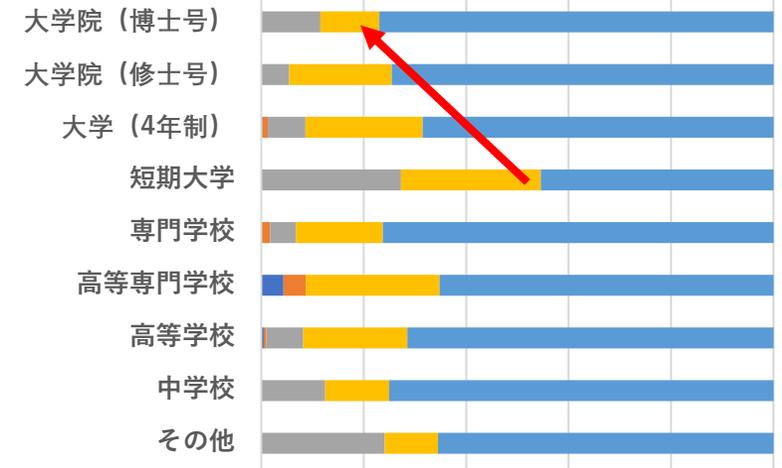
生理的欲求



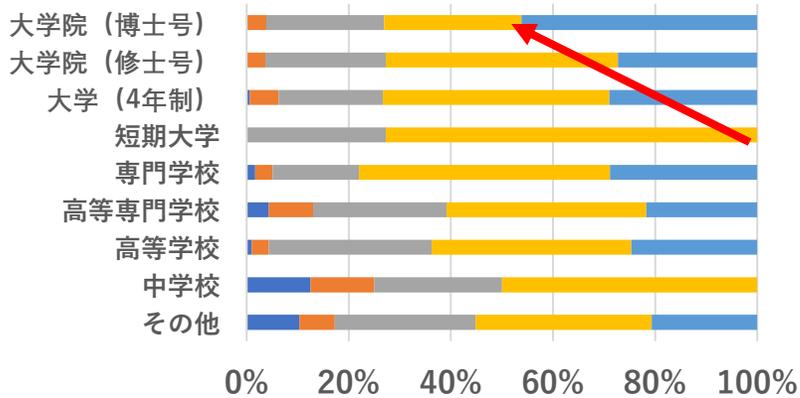
安全の欲求



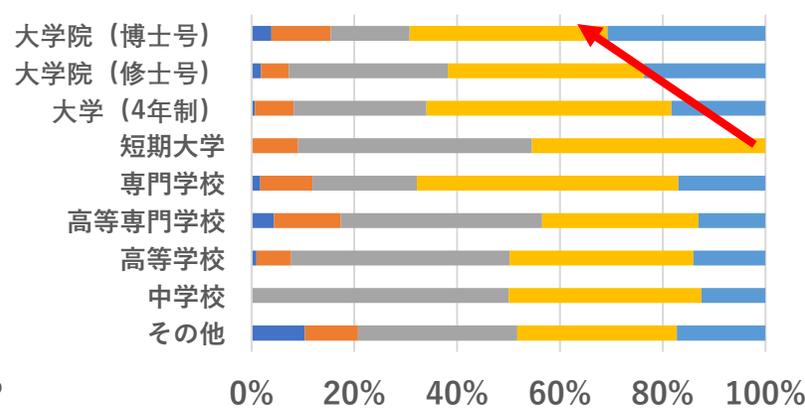
社会的欲求



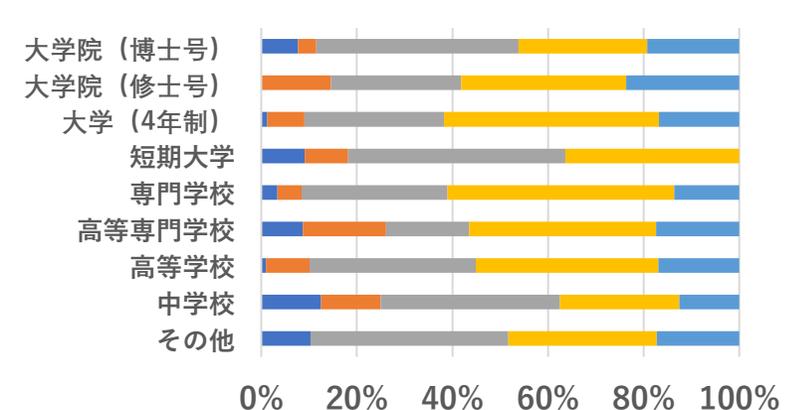
承認欲求



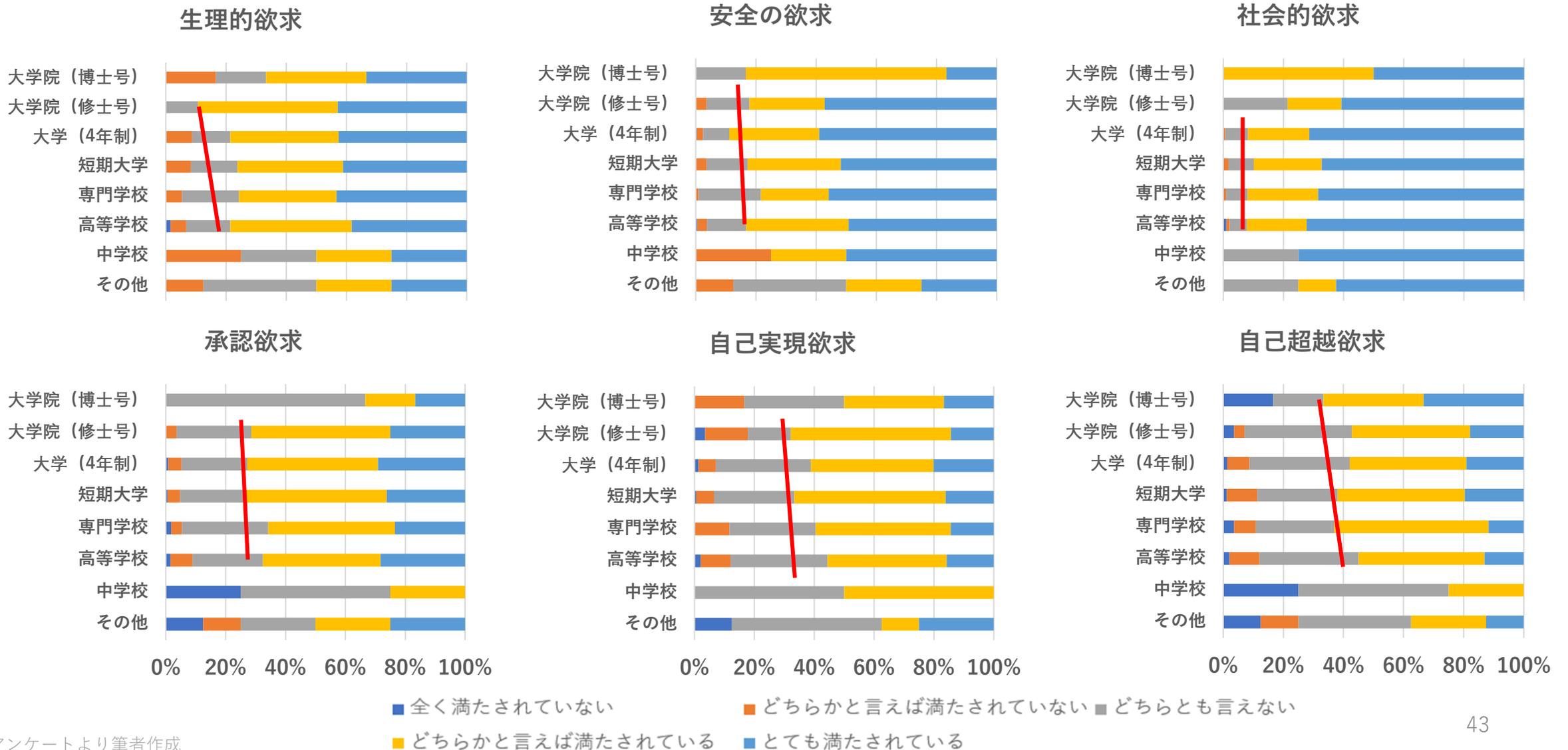
自己実現欲求



自己超越欲求



母親の学歴については、高等学校卒から大学院（修士号）卒に至る層において、「満たされている（4+5）」と回答する割合はおおむね横ばいまたは微増で推移している



参考：アンケート回答結果

性別×高校生活においてマズローの6つの欲求はどれほど満たされていると思うか（個数）

生理的欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
女	2	35	61	200	224
男	2	28	66	118	141
答えたくない		2	4	8	3

安全の欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
男	1	14	46	130	164
女	1	7	64	135	315
答えたくない		3	2	4	8

社会的欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
男	1	3	33	89	229
女	2	5	36	95	384
答えたくない			1	4	12

承認欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
男	3	20	101	150	81
女	7	24	106	225	160
答えたくない	1		4	9	3

自己実現欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
男	3	29	117	143	63
女	7	38	147	238	92
答えたくない	2	2	7	5	1

自己超越欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
男	6	35	117	145	52
女	12	37	152	224	97
答えたくない	1	2	10	2	2

参考：アンケート回答結果

年齢×高校生活においてマズローの6つの欲求はどれほど満たされていると思うか（個数）

生理的欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
15歳	3	10	22	55	50
16歳		28	56	144	182
17歳	1	18	51	107	111
18歳		7	2	19	25
19歳		1			

自己超越欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
15歳	3	11	44	59	23
16歳	5	32	121	175	77
17歳	8	25	98	112	45
18歳	2	6	15	24	6
19歳				1	

参考：アンケート回答結果

父親の学歴×高校生活においてマズローの6つの欲求はどれほど満たされていると思うか（個数）

生理的欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
中学校			2	3	3
高等学校	1	16	35	77	78
高等専門学校	1	1	5	8	8
専門学校		2	9	23	25
短期大学		1	5	4	1
大学（4年制）	1	37	59	179	200
大学院（修士号）		2	10	21	22
大学院（博士号）		3	1	4	18
その他	1	3	5	7	13

安全の欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
中学校		1	1	2	4
高等学校	1	5	37	60	104
高等専門学校	1		3	9	10
専門学校		2	5	16	36
短期大学			3	5	3
大学（4年制）		10	43	149	274
大学院（修士号）		4	6	18	27
大学院（博士号）			3	6	17
その他		2	11	4	12

社会的欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
中学校			1	1	6
高等学校	1	1	15	42	148
高等専門学校	1	1		6	15
専門学校		1	3	10	45
短期大学			3	3	5
大学（4年制）	1	5	35	109	326
大学院（修士号）			3	11	41
大学院（博士号）			3	3	20
その他			7	3	19

承認欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
中学校	1	1	2	4	
高等学校	2	7	66	81	51
高等専門学校	1	2	6	9	5
専門学校	1	2	10	29	17
短期大学			3	8	
大学（4年制）	3	27	97	211	138
大学院（修士号）		2	13	25	15
大学院（博士号）		1	6	7	12
その他	3	2	8	10	6

自己実現欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
中学校			4	3	1
高等学校	2	14	88	74	29
高等専門学校	1	3	9	7	3
専門学校	1	6	12	30	10
短期大学		1	5	5	
大学（4年制）	3	36	123	227	87
大学院（修士号）	1	3	17	21	13
大学院（博士号）	1	3	4	10	8
その他	3	3	9	9	5

自己超越欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされ ている
中学校	1	1	3	2	1
高等学校	2	19	72	79	35
高等専門学校	2	4	4	9	4
専門学校	2	3	18	28	8
短期大学	1	1	5	4	
大学（4年制）	6	37	139	214	80
大学院（修士号）		8	15	19	13
大学院（博士号）	2	1	11	7	5
その他	3		12	9	5

参考：アンケート回答結果

母親の学歴×高校生活においてマズローの6つの欲求はどれほど満たされていると思うか（個数）

生理的欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされて いる
中学校		1	1	1	1
高等学校	3	10	28	77	73
専門学校		6	21	36	48
短期大学		14	26	59	69
大学（4年制）	1	32	48	136	161
大学院（修士号）			3	13	12
大学院（博士号）		1	1	2	2
その他		1	3	2	2

社会的欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされて いる
中学校			1		3
高等学校	2	2	11	38	138
専門学校		1	8	26	76
短期大学		3	14	38	113
大学（4年制）	1	2	28	77	270
大学院（修士号）			6	5	17
大学院（博士号）				3	3
その他			2	1	5

自己実現欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされて いる
中学校			2	2	
高等学校	4	19	62	76	30
専門学校		13	32	50	16
短期大学	1	10	45	85	27
大学（4年制）	5	22	120	155	76
大学院（修士号）	1	4	4	15	4
大学院（博士号）		1	2	2	1
その他	1		4	1	2

安全の欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされて いる
中学校		1		1	2
高等学校	1	6	25	65	94
専門学校		1	23	25	62
短期大学		6	23	52	87
大学（4年制）	1	8	33	113	223
大学院（修士号）		1	4	7	16
大学院（博士号）			1	4	1
その他		1	3	2	2

承認欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされて いる
中学校	1		2	1	
高等学校	3	14	45	75	54
専門学校	2	4	32	47	26
短期大学	1	7	36	80	44
大学（4年制）	3	17	83	165	110
大学院（修士号）		1	7	13	7
大学院（博士号）			4	1	1
その他	1	1	2	2	2

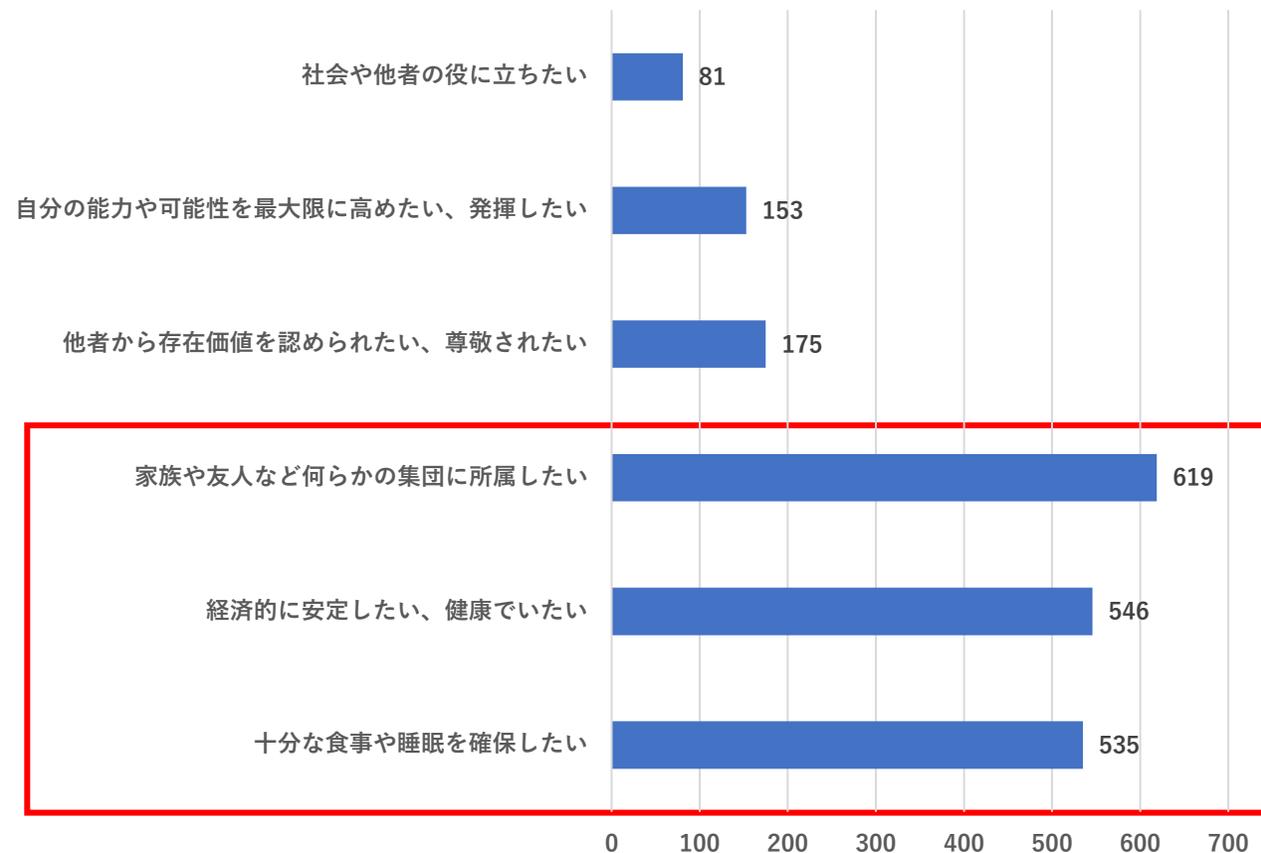
自己超越欲求

	全く満たされていない	どちらかと言え ば満たされていない	どちらとも言え ない	どちらかと言え ば満たされている	とても満たされて いる
中学校	1		2	1	
高等学校	4	19	63	80	25
専門学校	4	8	29	57	13
短期大学	2	17	45	71	33
大学（4年制）	5	28	126	147	72
大学院（修士号）	1	1	10	11	5
大学院（博士号）	1		1	2	2
その他	1	1	3	2	1

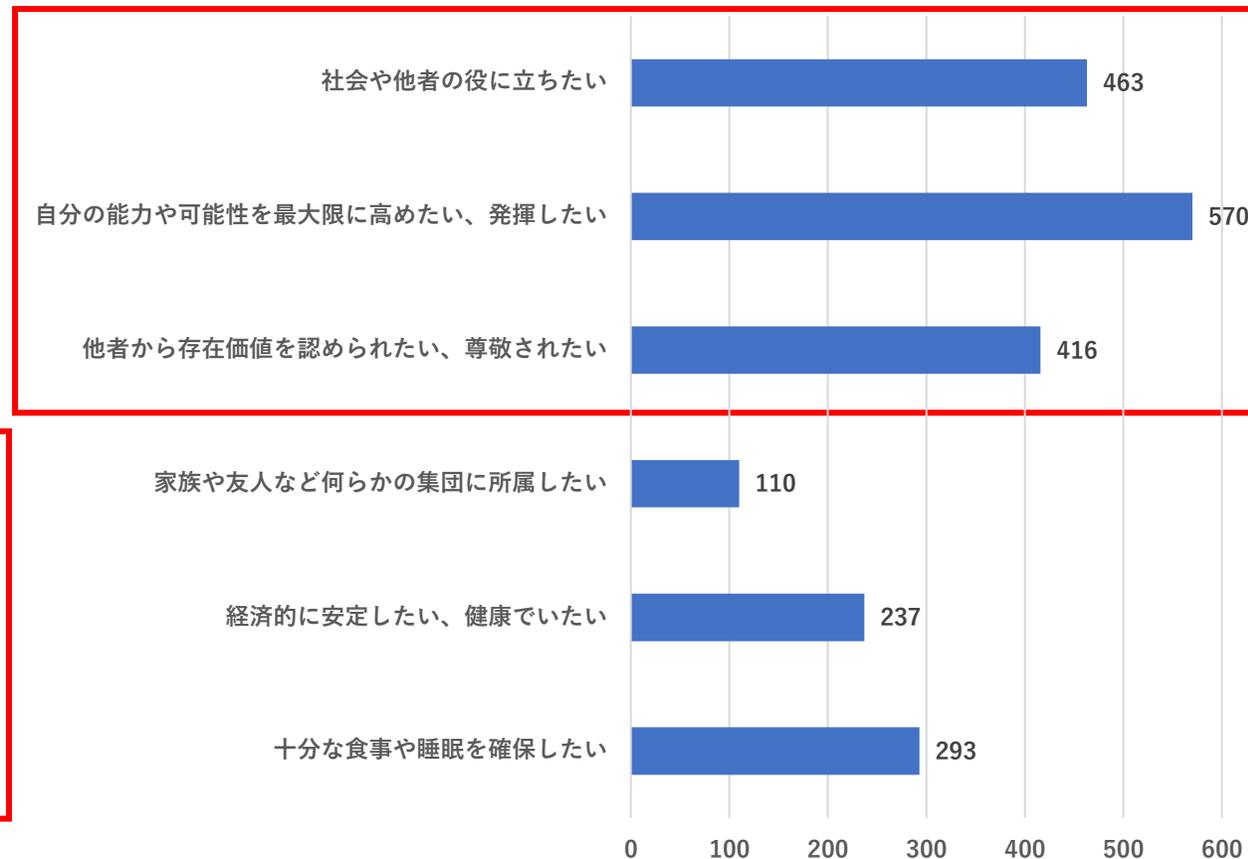
アンケート調査の結果（定量調査） | ②・③ 6つの欲求のうち、現在満たされている欲求と今後満たしたい欲求は何か。（全体）

「生理的欲求」・「安全の欲求」・「社会的欲求」はすでに満たされており、「承認欲求」・「自己実現欲求」・「自己超越欲求」を今後満たしたいと考えている

日常生活において、満たされている欲求（N=894）



今後、満たしていききたい欲求（N=894）

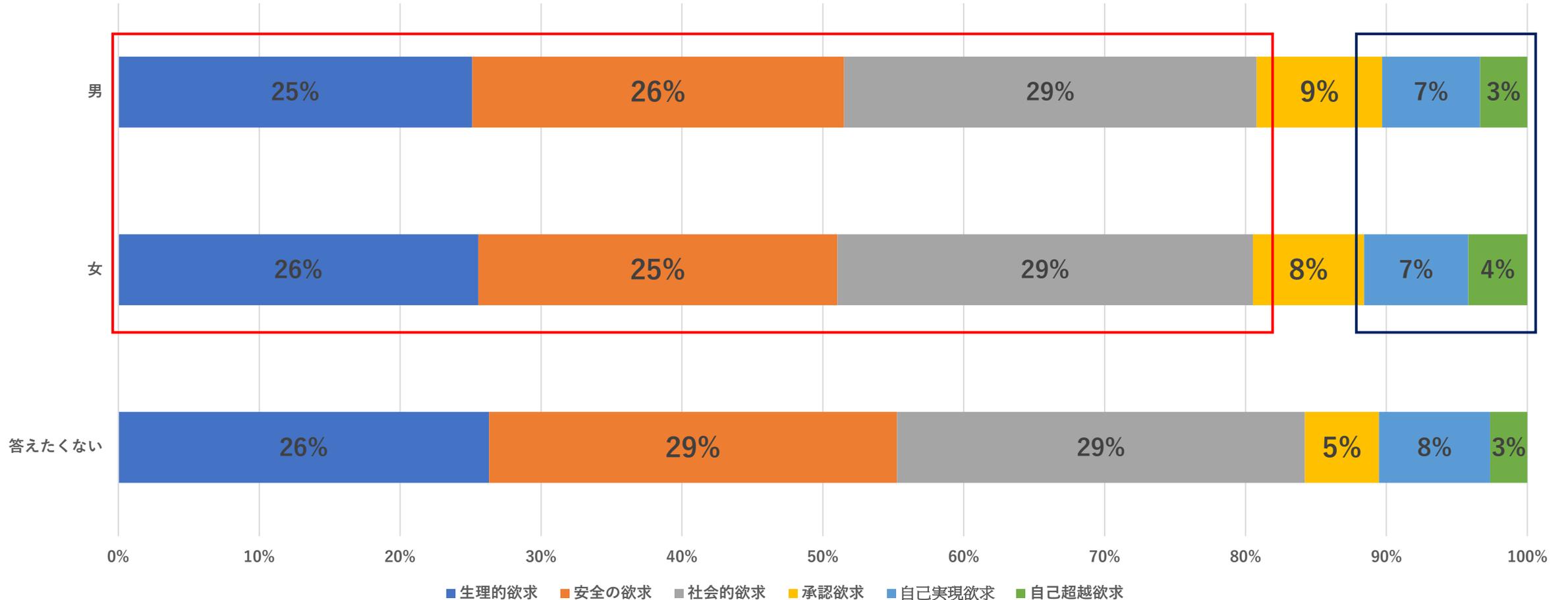


➤ マズローの欲求階層は逆転しており、より高次の欲求（自己超越・自己実現・承認欲求）から満たしたいと志向していることが明らかになった

アンケート調査の結果（定量調査） | ② 6つの欲求のうち、現在満たされている欲求は何か。（クロス集計）

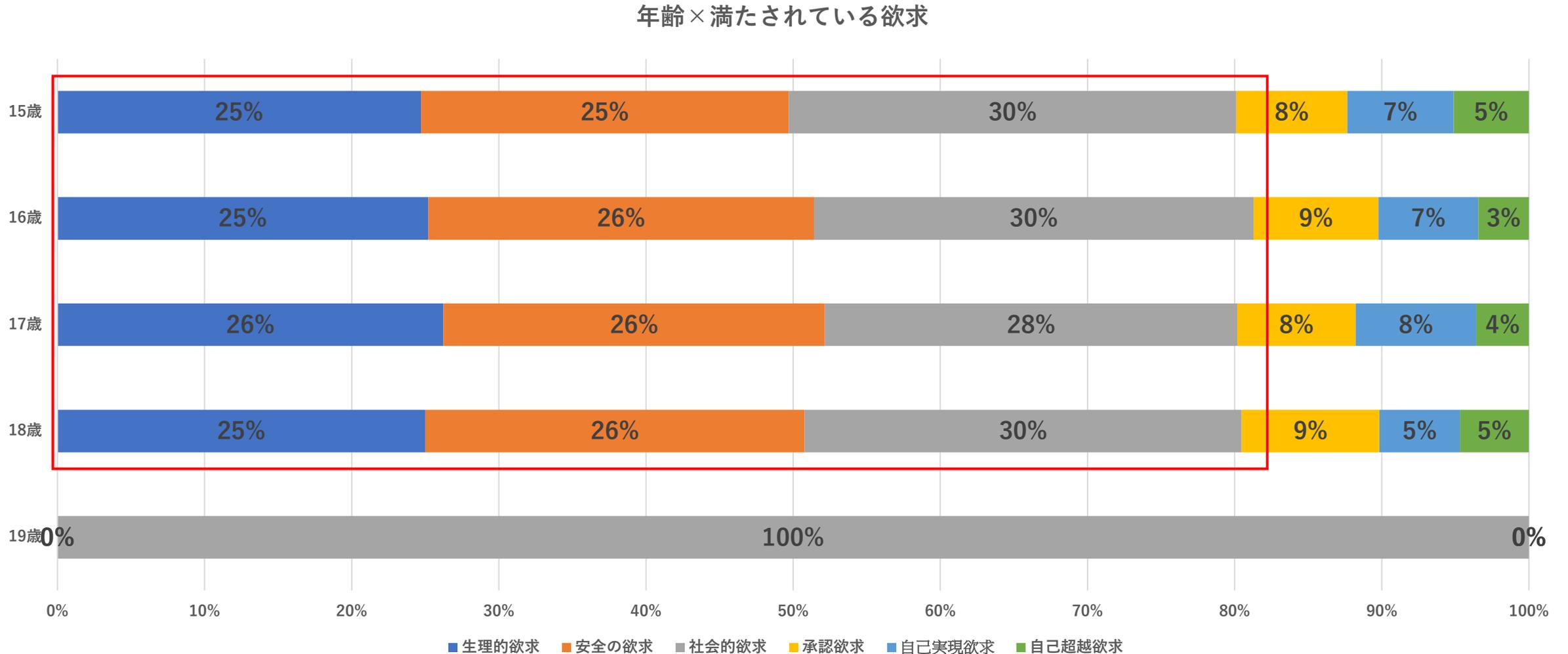
男女の性別に関係なく、低次の欲求（生理的欲求・安全の欲求・社会的欲求）が満たされて人が80%、高次の欲求（自己実現欲求・自己超越欲求）が満たされている人は全体の10%程度となっている

性別×満たされている欲求



アンケート調査の結果（定量調査） | ② 6つの欲求のうち、現在満たされている欲求は何か。（クロス集計）

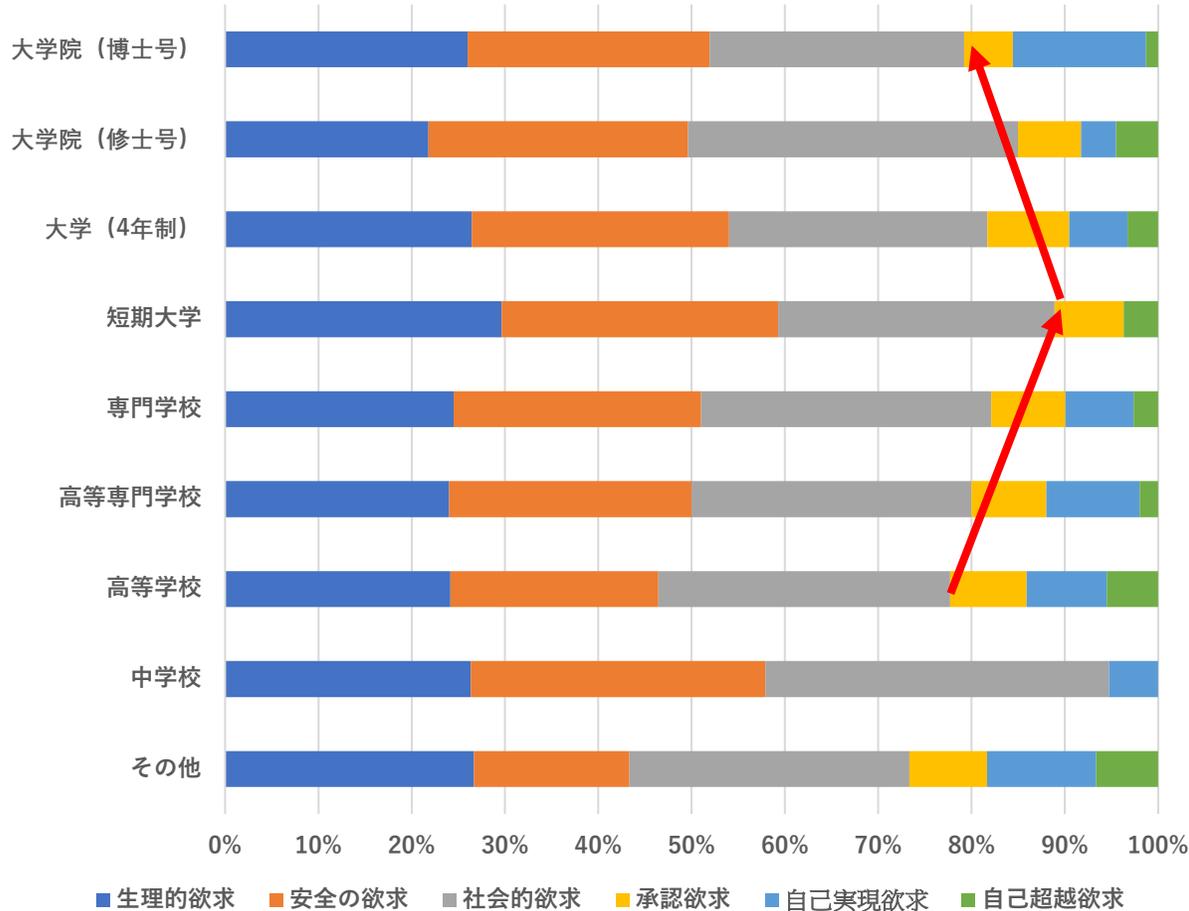
どの年代も、低次の欲求（生理的欲求・安全の欲求・社会的欲求）が満たされている人が全体の約80%を占めている



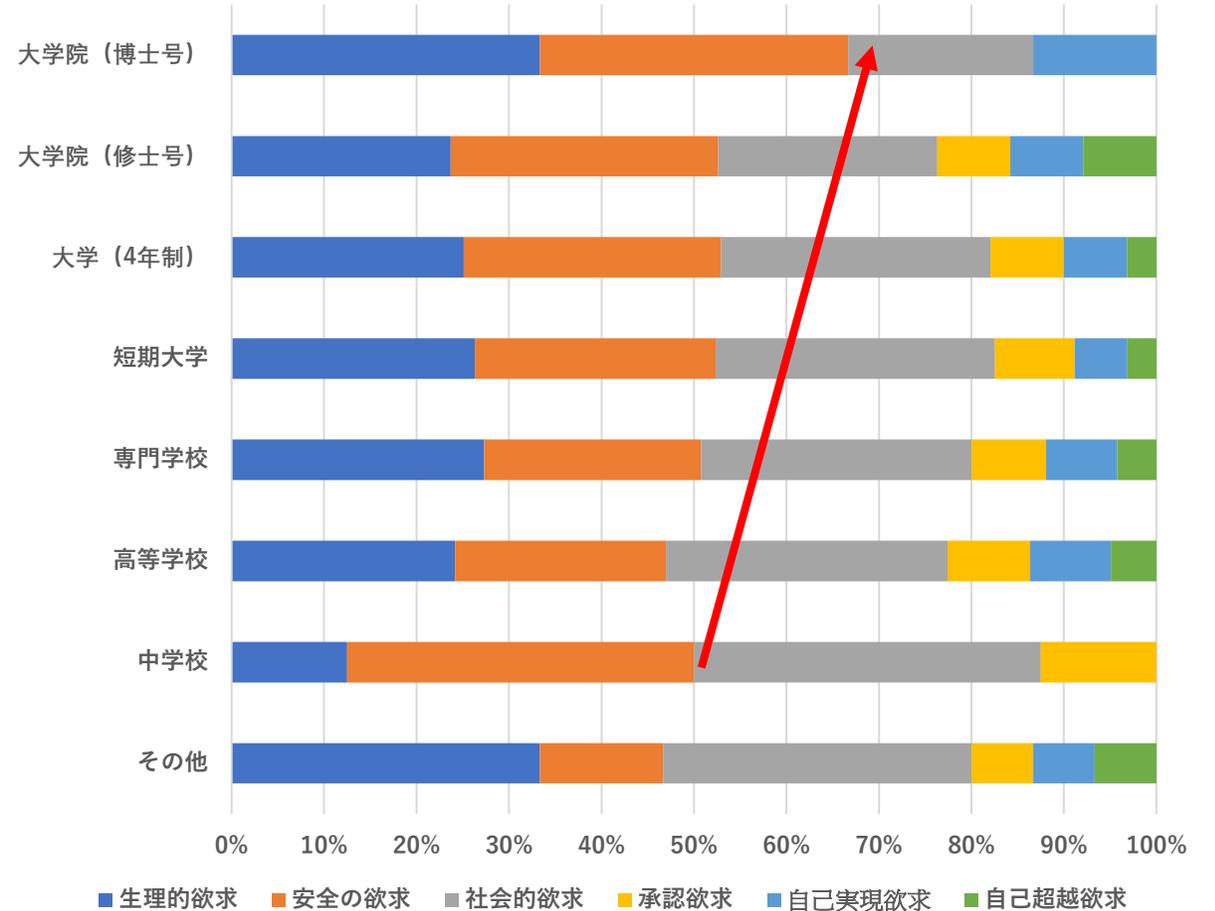
アンケート調査の結果（定量調査） | ② 6つの欲求のうち、現在満たされている欲求は何か。（クロス集計）

父親の学歴が短期大学以上になると生理的欲求と安全の欲求、社会的欲求の満足度に差は見られない。一方、母親の学歴については、高ければ高いほど、生理的欲求と安全の欲求が満たされている傾向が見られる

父親の学歴×満たされている欲求



母親の学歴×満たされている欲求



参考：アンケート回答結果

性別×現在満たされている欲求（個数）

	生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	承認欲求	自己実現欲求	自己超越欲求	計
男	217	228	253	77	60	29	864
女	311	310	359	96	90	51	1217
答えたくない	10	11	11	2	3	1	38

年齢×現在満たされている欲求（個数）

	生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	承認欲求	自己実現欲求	自己超越欲求	計
15歳	82	83	101	25	24	17	332
16歳	249	259	295	84	67	34	988
17歳	176	174	188	54	55	24	671
18歳	32	33	38	12	7	6	128
19歳	0	0	1	0	0	0	1

参考：アンケート回答結果

父親の学歴×現在満たされている欲求（個数）

	生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	承認欲求	自己実現欲求	自己超越欲求	計
中学校	5	6	7	0	1	0	19
高等学校	118	109	153	40	42	27	489
高等専門学校	12	13	15	4	5	1	50
専門学校	37	40	47	12	11	4	151
短期大学	8	8	8	2	0	1	27
大学(4年制)	299	312	313	99	71	37	1131
大学院(修士号)	29	37	47	9	5	6	133
大学院(博士号)	20	20	21	4	11	1	77
その他	16	10	18	5	7	4	60

母親の学歴×現在満たされている欲求（個数）

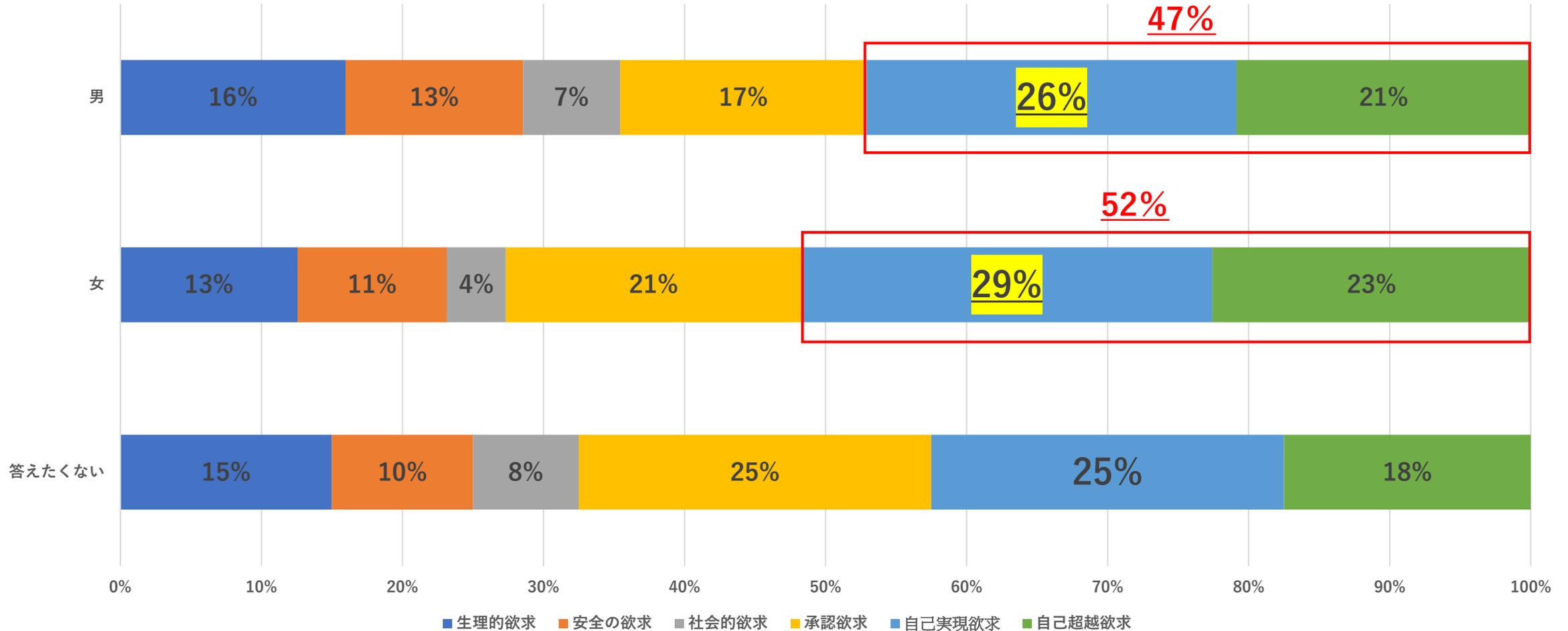
	生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	承認欲求	自己実現欲求	自己超越欲求	計
中学校	1	3	3	1	0	0	8
高等学校	108	102	136	40	39	22	447
専門学校	71	61	76	21	20	11	260
短期大学	101	100	116	33	22	12	384
大学(4年制)	231	256	268	73	63	29	920
大学院(修士号)	18	22	18	6	6	6	76
大学院(博士号)	5	5	3	0	2	0	15
その他	5	2	5	1	1	1	15

アンケート調査の結果（定量調査） | ③ 6つの欲求のうち、今後満たしたい欲求は何か。（クロス集計）

約30%弱の高校生が「自己実現欲求」を今後最も満たしたいと考えている

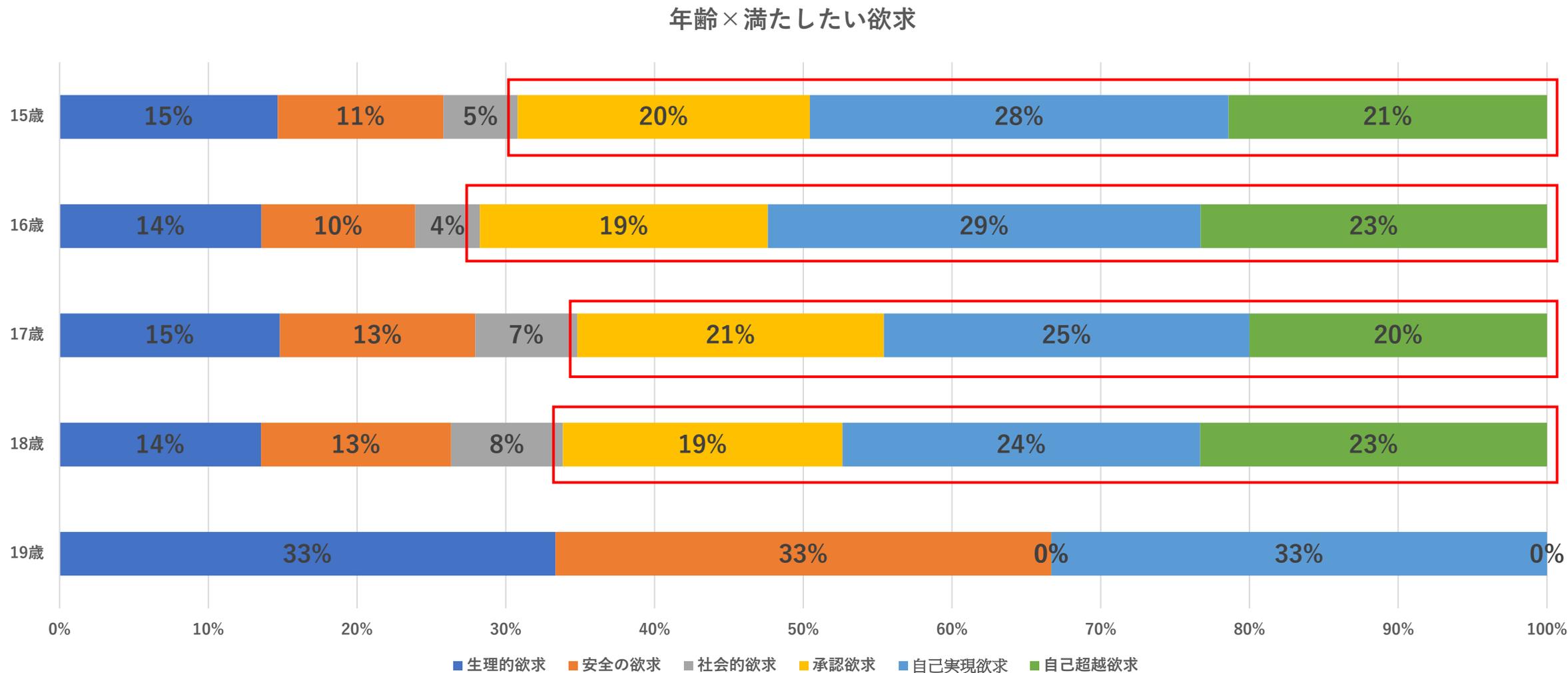
また、男性よりも女性の方が高次の欲求（自己実現欲求・自己超越欲求）を満たしたいと考える傾向がある

性別×満たしたい欲求



アンケート調査の結果（定量調査） | ③ 6つの欲求のうち、今後満たしたい欲求は何か。（クロス集計）

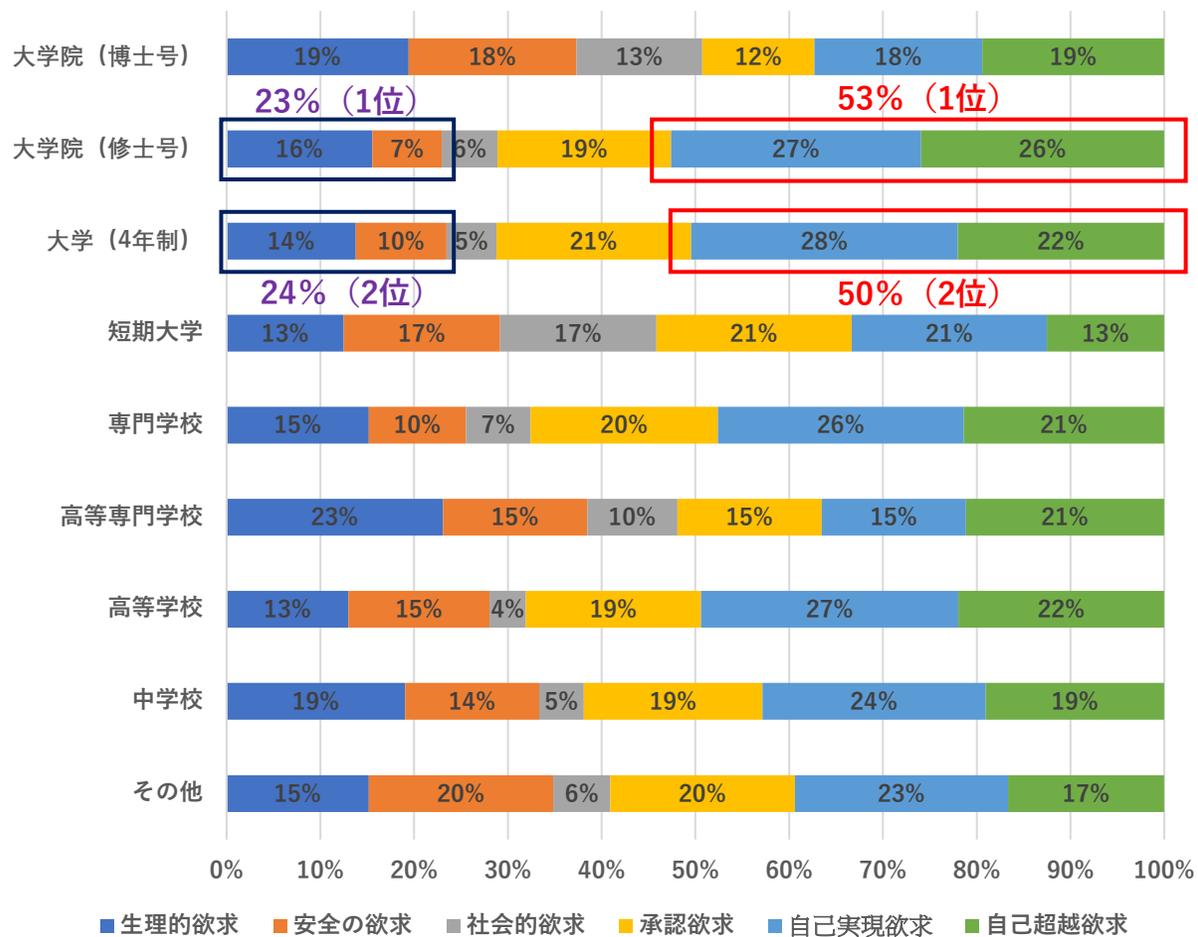
いずれの年齢でも「自己実現欲求」「自己超越欲求」「承認欲求」が一貫して高くなっており、高校生は早い段階から『生き方』や『成長』に関わる欲求を重視している



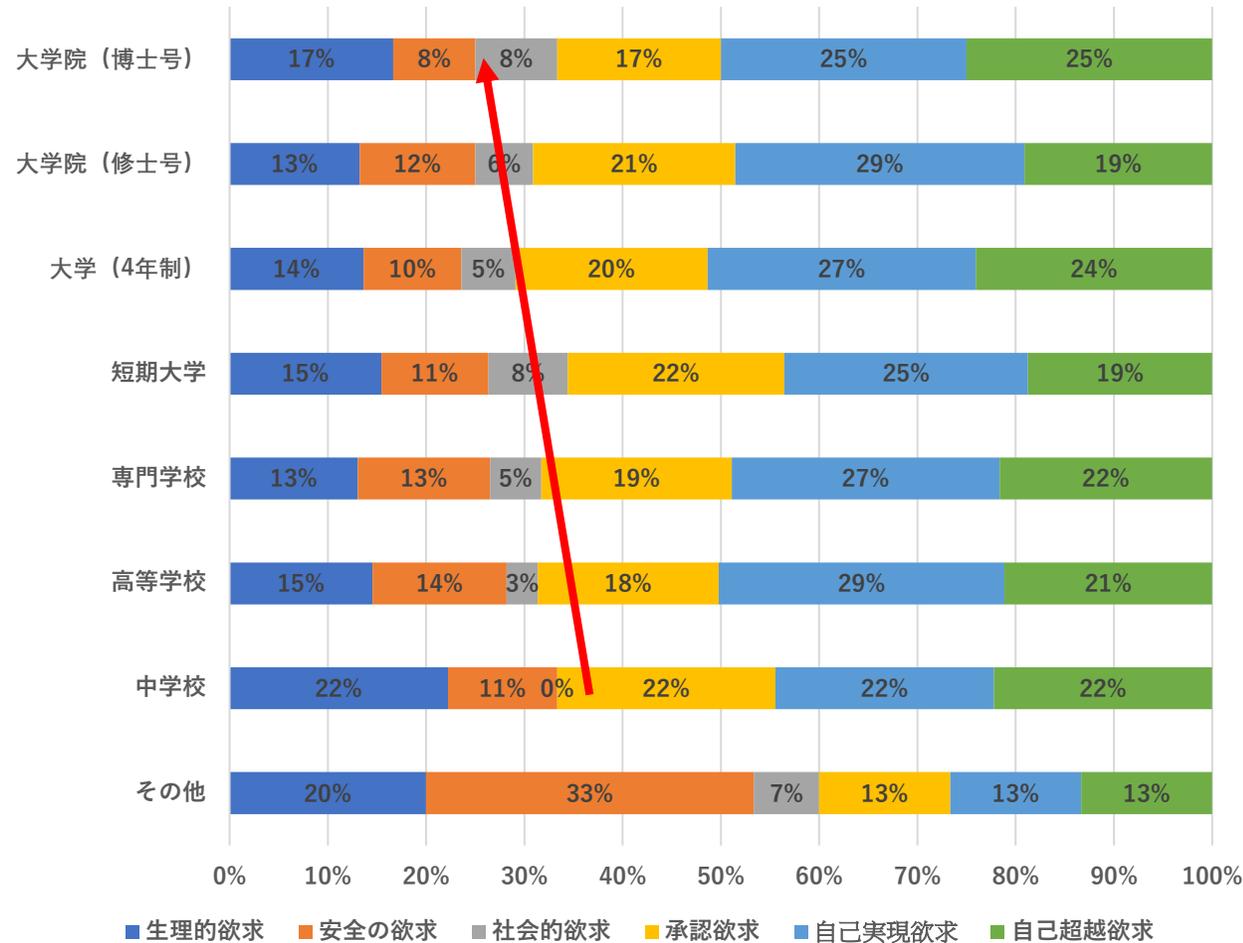
アンケート調査の結果（定量調査） | ③ 6つの欲求のうち、今後満たしたい欲求は何か。（クロス集計）

父母共に親に学歴が高い層ほど「自己実現」「自己超越」の比重が高く、低い層では「生理的欲求」「安全の欲求」の比重が高まっている。特に、母親の学歴の方が欲求構造との関連が明確に表れている

父親の学歴×満たしたい欲求



母親の学歴×満たしたい欲求



参考：アンケート回答結果

性別×今後満たしたい欲求（個数）

	生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	承認欲求	自己実現欲求	自己超越欲求	計
男	137	108	59	150	225	179	858
女	153	129	51	255	355	275	1218
答えたくない	6	4	3	10	10	7	40

年齢×今後満たしたい欲求（個数）

	生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	承認欲求	自己実現欲求	自己超越欲求	計
15歳	50	38	17	67	96	73	341
16歳	131	100	42	187	281	225	966
17歳	97	86	45	135	161	131	655
18歳	18	17	10	25	32	31	133
19歳	1	1	0	0	1	0	3

参考：アンケート回答結果

父親の学歴×今後満たしたい欲求（個数）

	生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	承認欲求	自己実現欲求	自己超越欲求	計
中学校	4	3	1	4	5	4	21
高等学校	64	74	19	92	135	108	492
高等専門学校	12	8	5	8	8	11	52
専門学校	22	15	10	29	38	31	145
短期大学	3	4	4	5	5	3	24
大学(4年制)	153	108	59	231	316	245	1112
大学院(修士号)	21	10	8	25	36	35	135
大学院(博士号)	13	12	9	8	12	13	67
その他	10	13	4	13	15	11	66

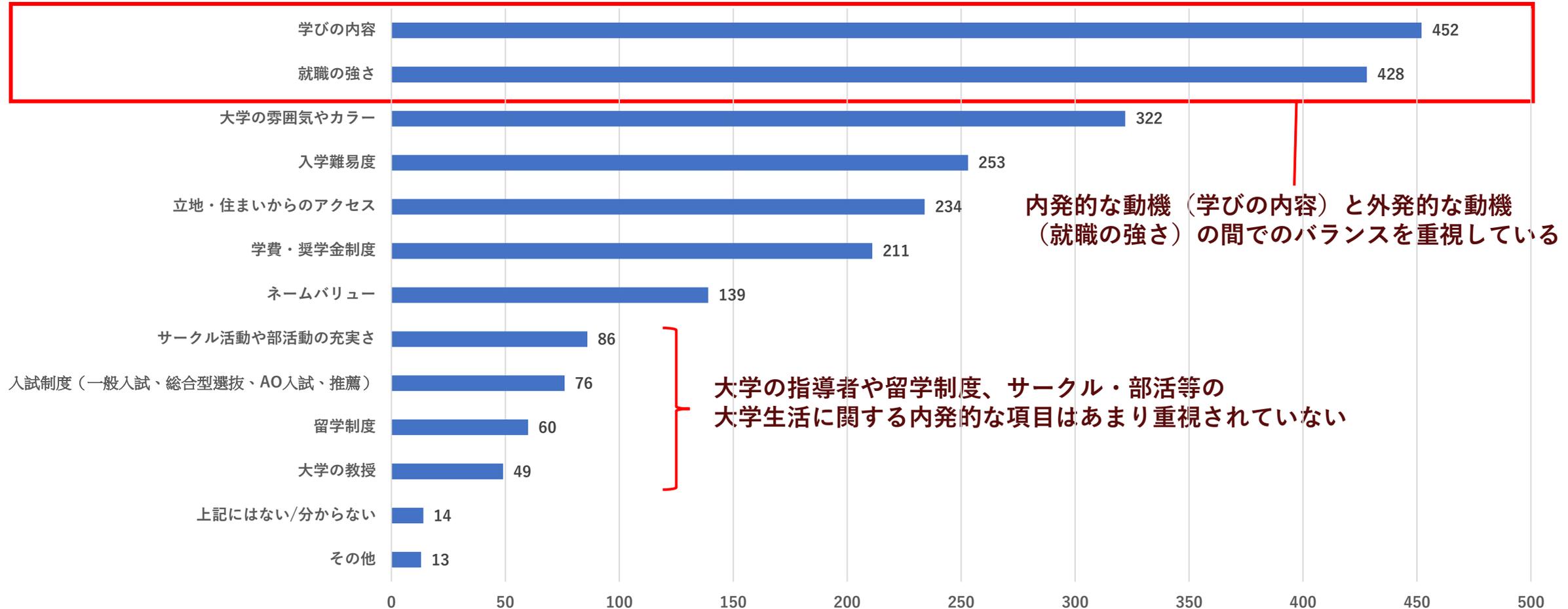
母親の学歴×今後満たしたい欲求（個数）

	生理的欲求	安全の欲求	社会的欲求	承認欲求	自己実現欲求	自己超越欲求	計
中学校	2	1	0	2	2	2	9
高等学校	64	60	14	81	128	93	440
専門学校	35	36	14	52	73	58	268
短期大学	61	43	32	87	98	74	395
大学(4年制)	122	89	49	175	244	215	894
大学院(修士号)	9	8	4	14	20	13	68
大学院(博士号)	2	1	1	2	3	3	12
その他	3	5	1	2	2	2	15

アンケート調査の結果（定量調査） | ④大学進学の際に重視することは何か。（全体）

大学進学の際には「学びの内容」が最も重視されている。一方、「就職の強さ」も「学びの内容」と同程度に重視されており、高校生は両者の間でバランスをとって大学進学先を決定している

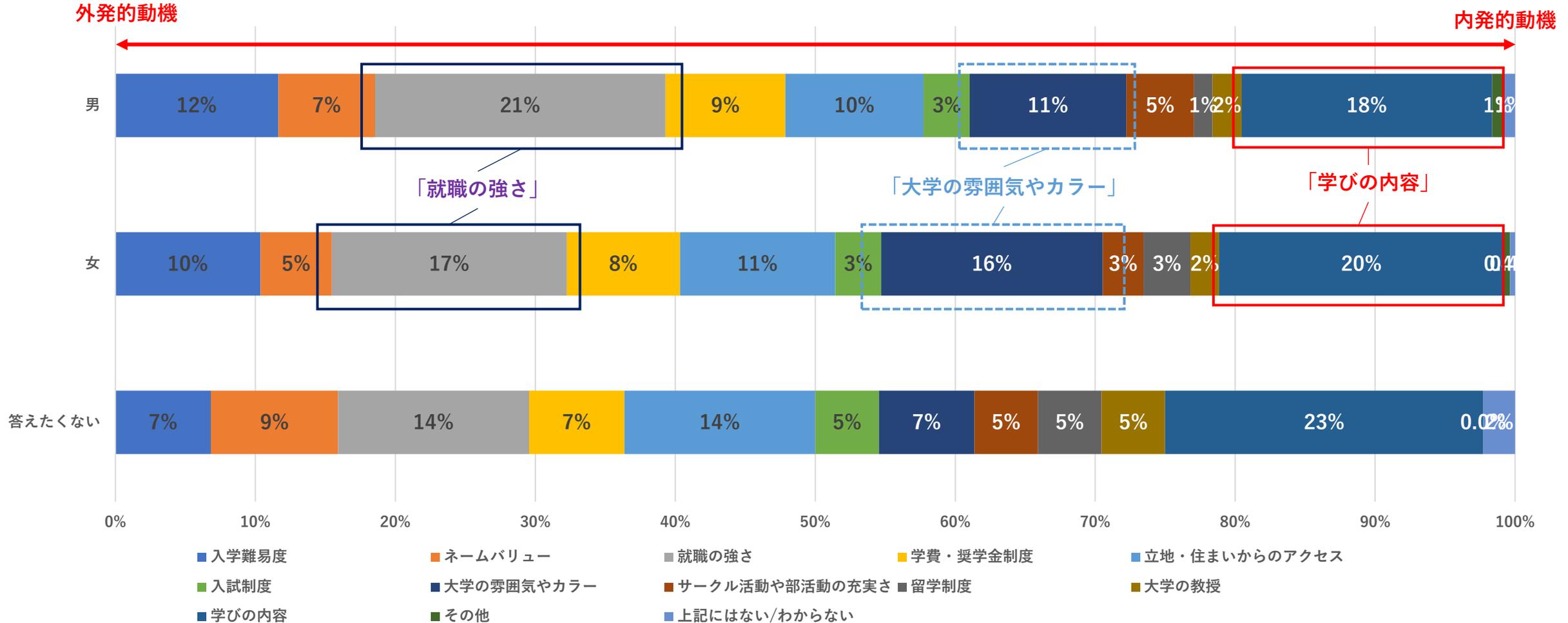
大学進学の際に重視すること



アンケート調査の結果（定量調査） | ④大学進学の際に重視することは何か。（クロス集計）

男性は女性よりも「就職の強さ」を重視している一方、女性は男性よりも「学びの内容」を重視している。また、女性は「大学の雰囲気やカラー」を「就活の強さ」と同程度重視していることが見て取れる

性別×大学進学で重視すること



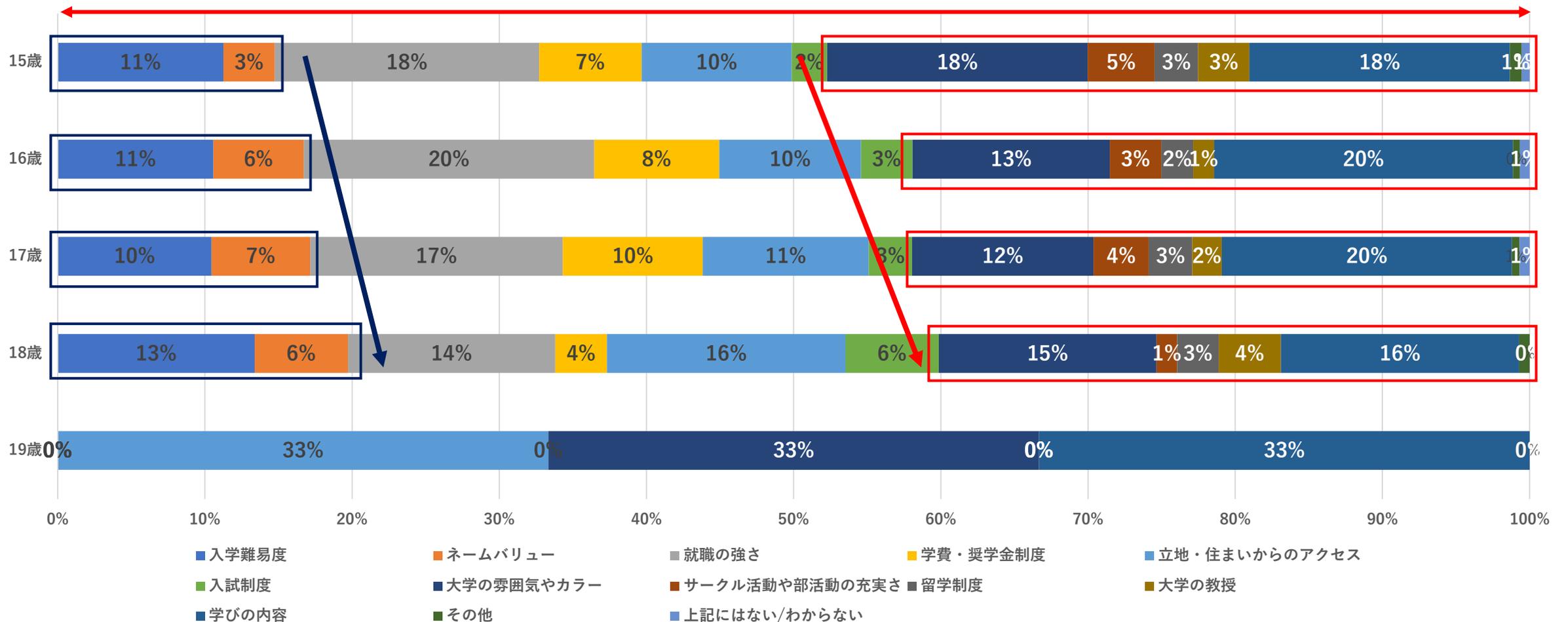
アンケート調査の結果（定量調査） | ④大学進学の際に重視することは何か。（クロス集計）

年齢が上がるにつれて「入学難易度」や「ネームバリュー」といった外発的な動機を重視する割合が増え、逆に「大学の雰囲気・カラー」や「学びの内容」などの内発的な動機が重視されなくなっている

年齢×大学進学で重視すること

外発的動機

内発的動機

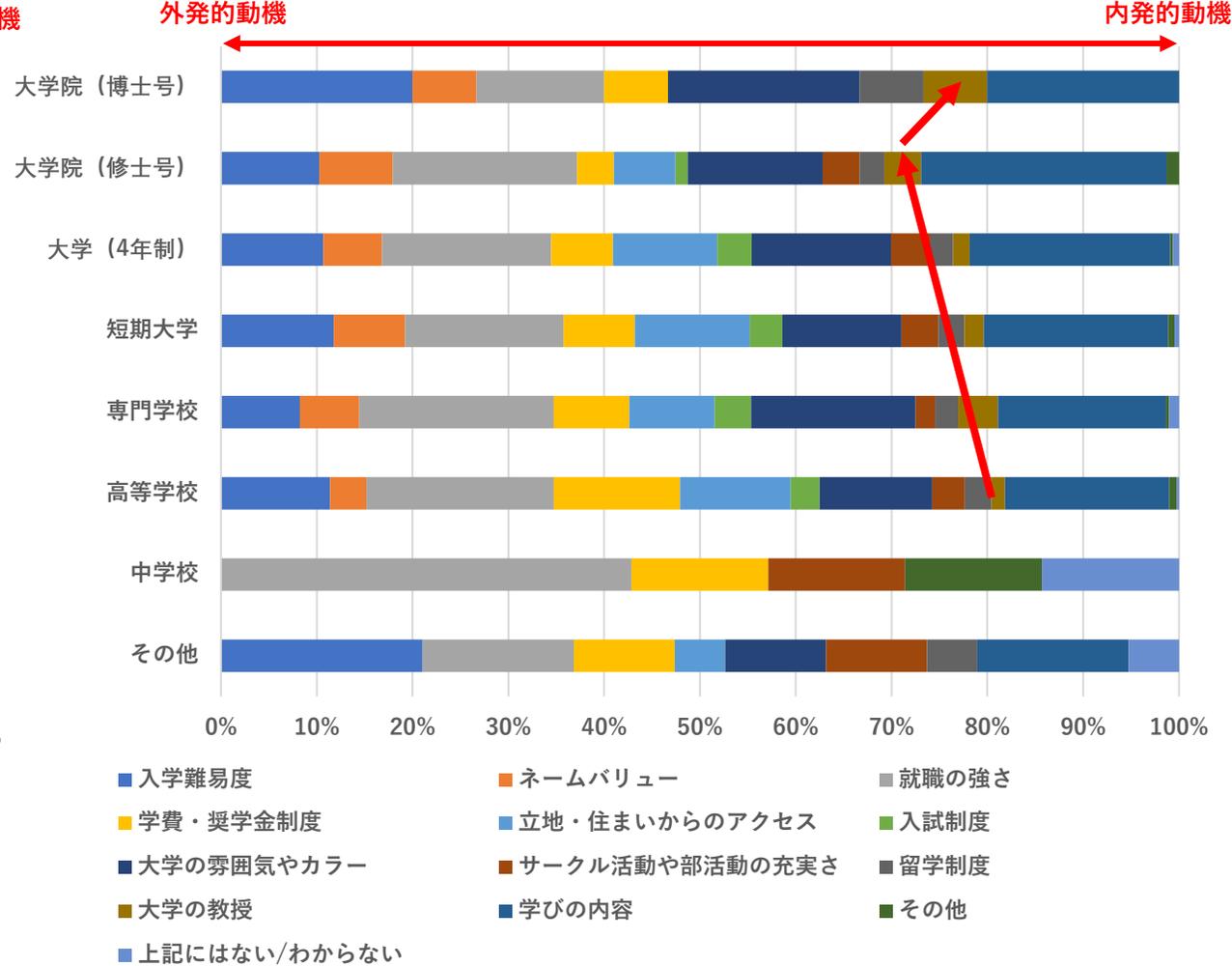
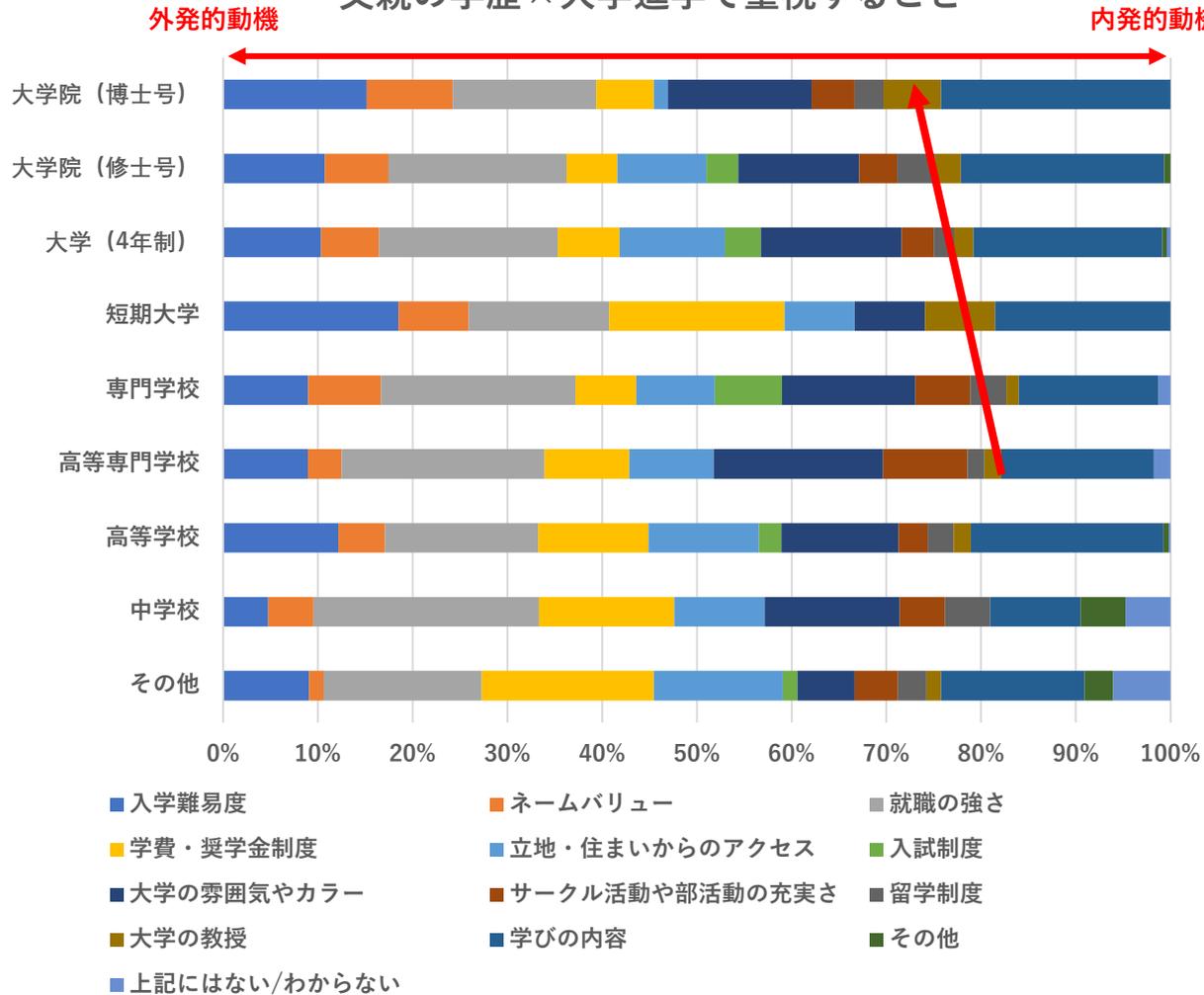


アンケート調査の結果（定量調査） | ④大学進学の際に重視することは何か。（クロス集計）

親の学歴が高いほど、子どもが大学進学の際に「学びの内容」を重視する傾向が見られる。また、親の学歴が低いほど「学費・奨学金」「アクセス」「入試制度」などの制度的条件が相対的に重視される。

父親の学歴×大学進学で重視すること

母親の学歴×大学進学で重視すること



参考：アンケート回答結果

性別×大学進学の際に重視すること（個数）

	入学難易度	ネームバリュー	就職の強さ	学費・奨学金制度	立地・住まいからのアクセス	入試制度	大学の雰囲気やカラー	サークル活動や部活動の充実さ	留学制度	大学の教授	学びの内容	その他	上記にはない/わからない	計
男	106	63	189	78	90	30	102	44	12	19	163	7	8	911
女	142	70	230	111	152	45	217	40	46	28	279	6	5	1371
答えたくない	3	4	6	3	6	2	3	2	2	2	10	0	1	44

年齢×大学進学の際に重視すること（個数）

	入学難易度	ネームバリュー	就職の強さ	学費・奨学金制度	立地・住まいからのアクセス	入試制度	大学の雰囲気やカラー	サークル活動や部活動の充実さ	留学制度	大学の教授	学びの内容	その他	上記にはない/わからない	計
15歳	42	13	67	26	38	9	66	17	11	13	66	3	2	373
16歳	112	65	209	90	102	37	142	37	23	15	215	5	7	1059
17歳	78	50	128	71	84	22	92	28	22	15	147	4	5	746
18歳	19	9	20	5	23	9	21	2	4	6	23	1	0	142
19歳	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	3

参考：アンケート回答結果

父親の学歴×大学進学の際に重視すること（個数）

	入学難易度	ネームバリュー	就職の強さ	学費・奨学金制度	立地・住まいからのアクセス	入試制度	大学の雰囲気やカラー	サークル活動や部活動の充実さ	留学制度	大学の教授	学びの内容	その他	上記にはない/わからない	計
中学校	1	1	5	3	2	0	3	1	1	0	2	1	1	21
高等学校	67	27	89	64	64	13	68	17	15	10	112	3	1	550
高等専門学校	5	2	12	5	5	0	10	5	1	1	9	0	1	56
専門学校	14	12	32	10	13	11	22	9	6	2	23	0	2	156
短期大学	5	2	4	5	2	0	2	0	0	2	5	0	0	27
大学(4年制)	128	76	234	81	138	47	184	42	27	25	247	6	5	1240
大学院(修士号)	16	10	28	8	14	5	19	6	6	4	32	1	0	149
大学院(博士号)	10	6	10	4	1	0	10	3	2	4	16	0	0	66
その他	6	1	11	12	9	1	4	3	2	1	10	2	4	66

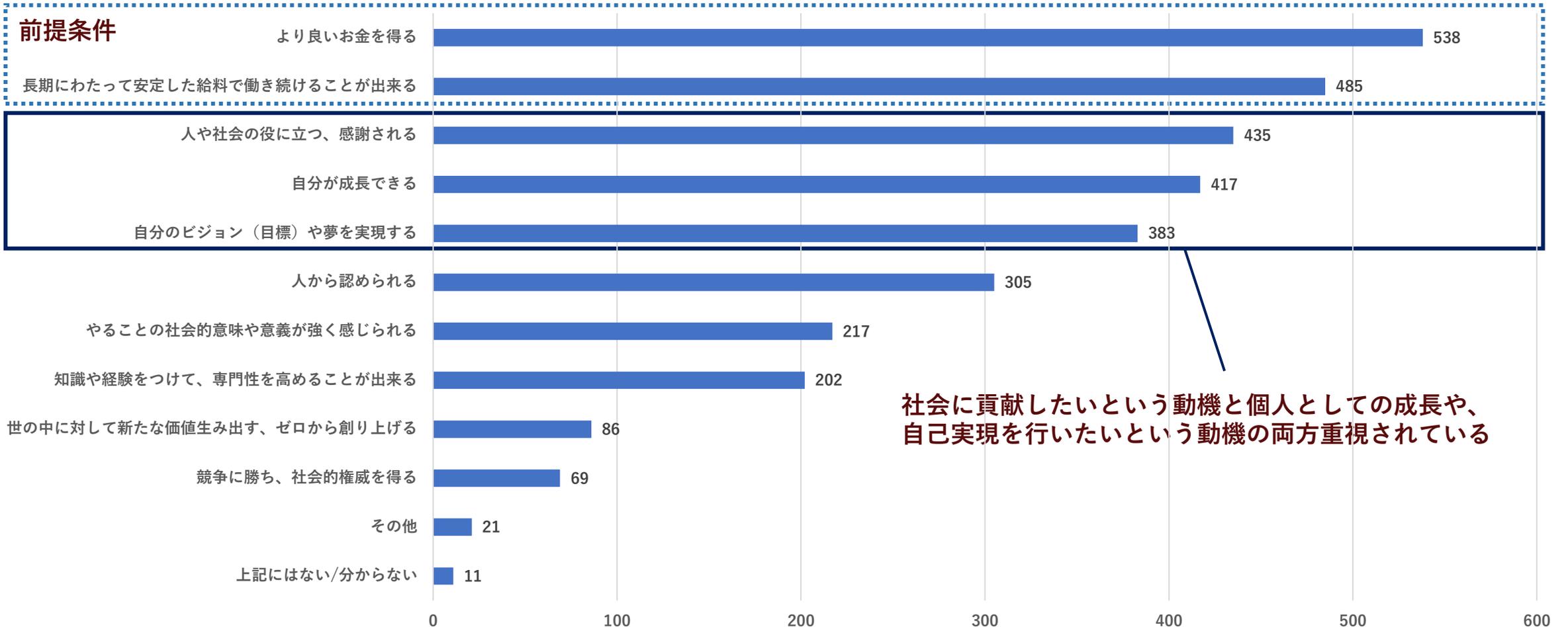
母親の学歴×大学進学の際に重視すること（個数）

	入学難易度	ネームバリュー	就職の強さ	学費・奨学金制度	立地・住まいからのアクセス	入試制度	大学の雰囲気やカラー	サークル活動や部活動の充実さ	留学制度	大学の教授	学びの内容	その他	上記にはない/わからない	計
中学校	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	7
高等学校	57	19	98	66	58	15	59	17	14	7	86	4	1	501
専門学校	24	18	59	23	26	11	50	6	7	12	51	1	3	291
短期大学	52	33	73	33	53	15	55	17	12	9	85	3	2	442
大学(4年制)	104	60	172	63	106	35	142	40	23	17	204	3	6	975
大学院(修士号)	8	6	15	3	5	1	11	3	2	3	20	1	0	78
大学院(博士号)	3	1	2	1	0	0	3	0	1	1	3	0	0	15
その他	4	0	3	2	1	0	2	2	1	0	3	0	1	19

アンケート調査の結果（定量調査） | ⑤将来のキャリアで重視することは何か。（全体）

生活のための「所得」や「雇用の安定」を前提としつつ、他者からの評価や社会的権威の獲得よりも、社会への貢献や自身の成長、ビジョンや夢の実現が重視される傾向にある

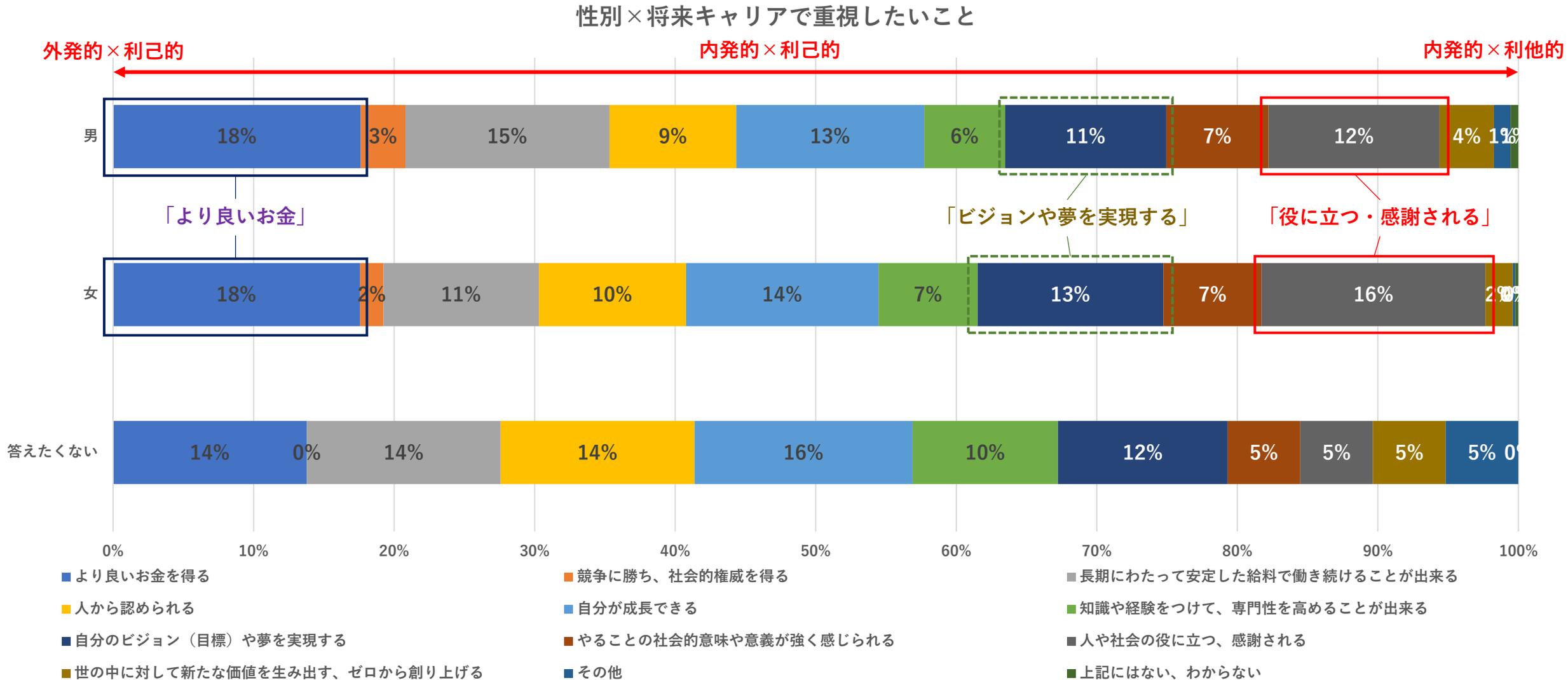
将来のキャリアで重視すること



社会に貢献したいという動機と個人としての成長や、自己実現を行いたいという動機の両方重視されている

アンケート調査の結果（定量調査） | ⑤将来のキャリアで重視することは何か。（クロス集計）

男女共に「より良いお金を得る」ことを最も重視しているが、男性と比べて女性の方が「ビジョンや夢を実現する」、「人や社会の役に立つ、感謝される」といった自己実現・自己超越を重視する傾向が見られる。

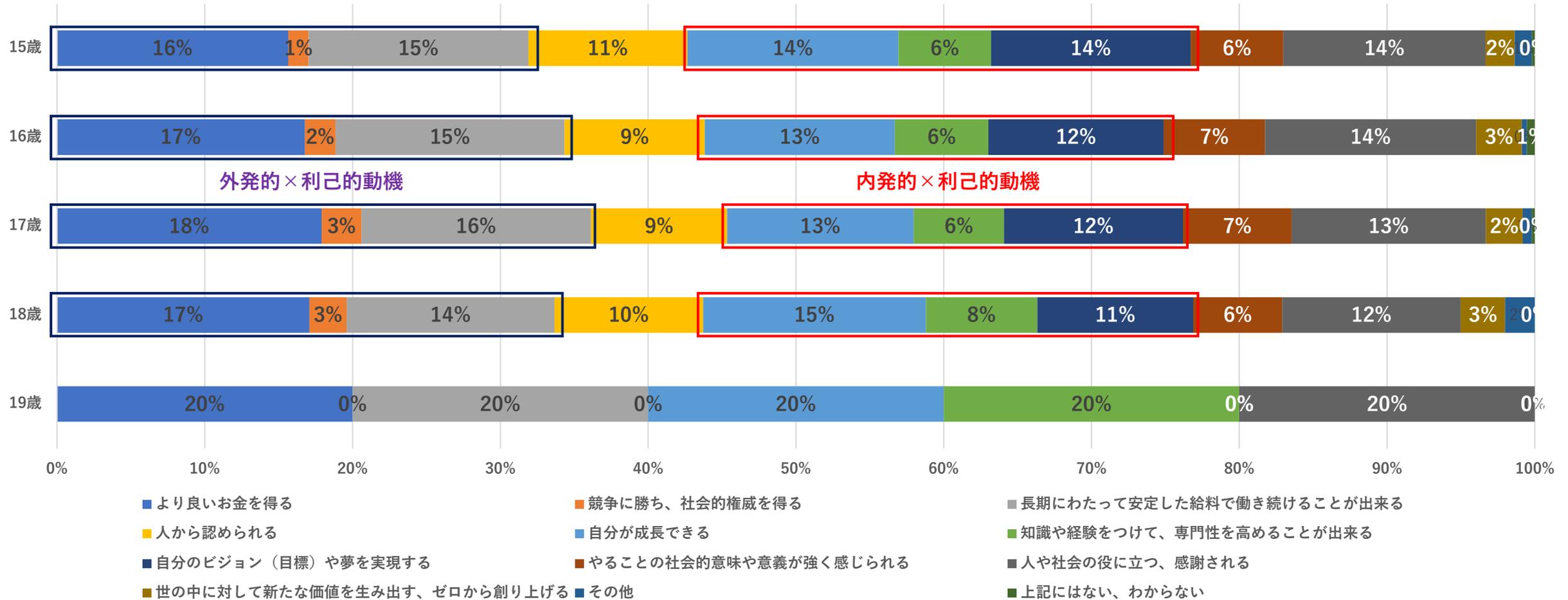


アンケート調査の結果（定量調査） | ⑤将来のキャリアで重視することは何か。（クロス集計）

15～18歳で分布はほぼ安定しており、キャリア観の基本構造は大きく変わらない。

「外発的×利己的」要素が前提となりつつも、「内発的×利己的動機」要素も同程度に重視されている。

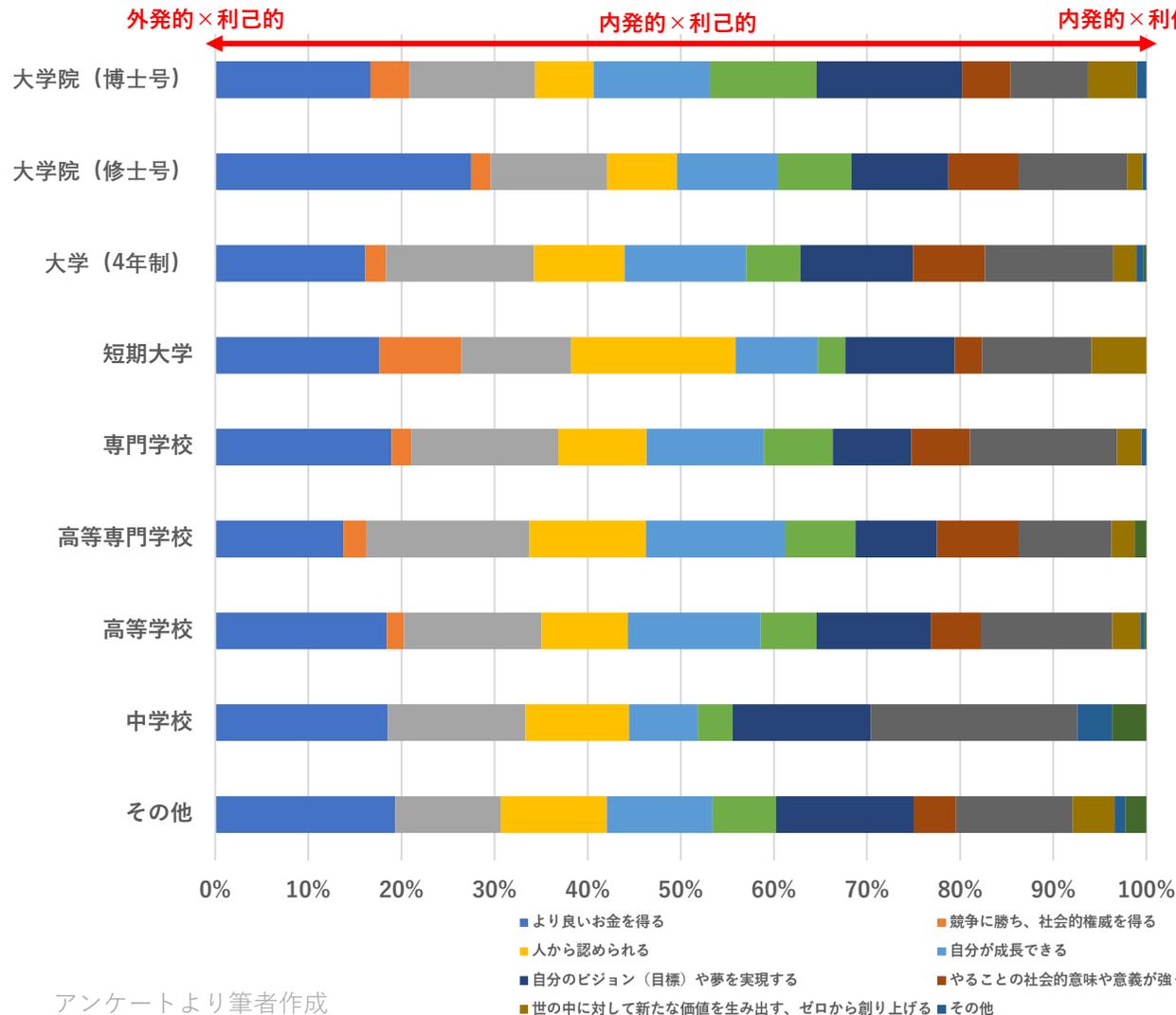
年齢×将来キャリアで重視したいこと



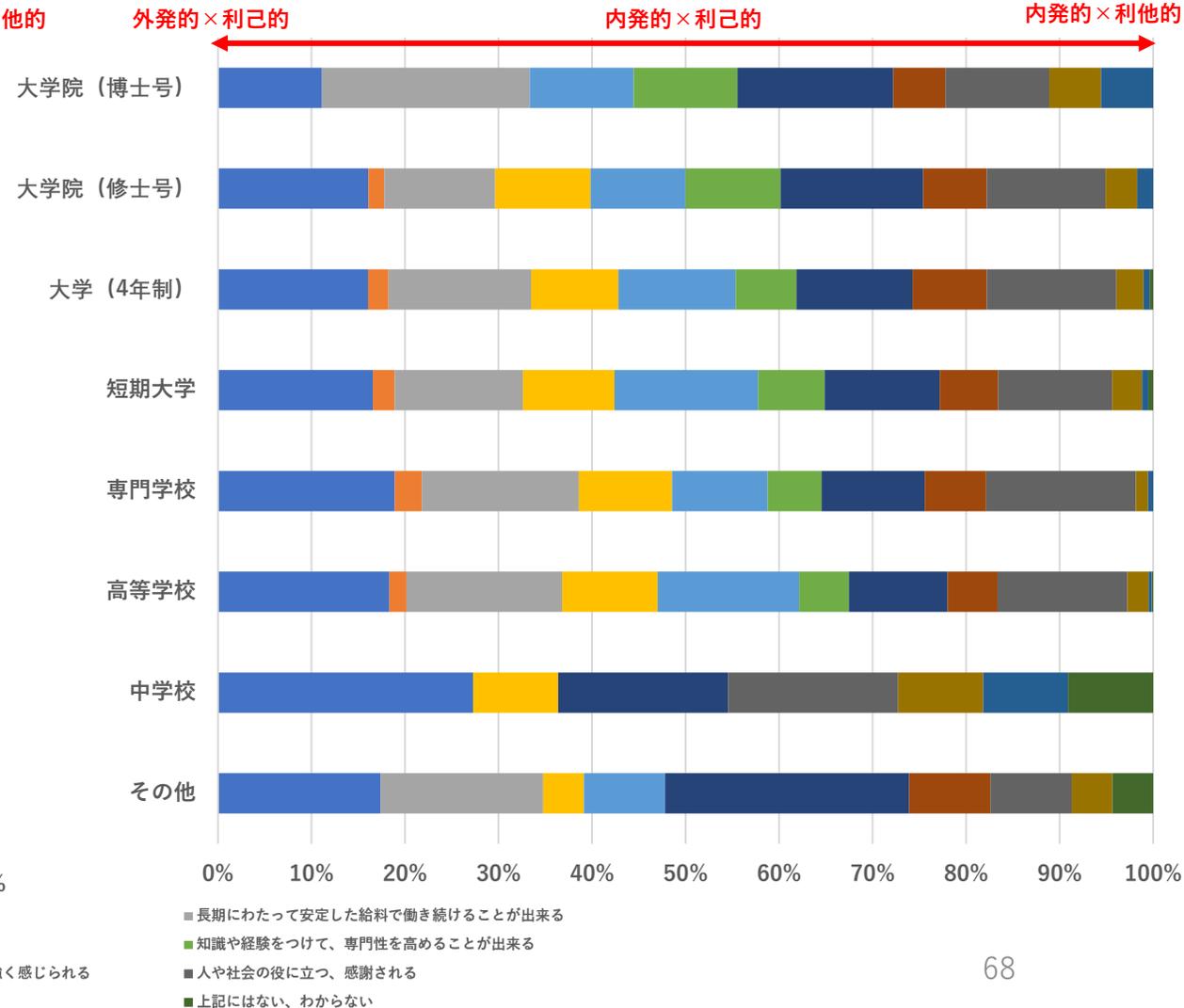
アンケート調査の結果（定量調査） | ⑤将来のキャリアで重視することは何か。（クロス集計）

両親の学歴に関係なく、全体的に「より良いお金」や「安定」「自己成長」といった利己的動機が重視され、社会貢献や意義などの自己超越的「内発的×利他的動機」を強く重視する層は少数である。

父親の学歴×将来キャリアで重視したいこと



母親の学歴×将来キャリアで重視したいこと



参考：アンケート回答結果

性別×将来のキャリアで重視すること（個数）

	より良いお金を得る	競争に勝ち、社会的権威を得る	長期にわたって安定した給料で働き続けることができる	人から認められる	自分が成長できる	知識や経験をつけて、専門性を高めることができる	自分のビジョン(目標)や夢を実現する	やることの社会的意味や意義が強く感じられる	人や社会の役に立つ感謝される	世の中に対して新たな価値を生み出すゼロから創り上げる	その他	上記にはないわからない	計
男	223	40	184	114	169	73	145	92	154	49	15	7	1265
女	307	29	193	183	239	123	231	122	278	34	3	4	1746
答えたくない	8	0	8	8	9	6	7	3	3	3	3	0	58

年齢×将来のキャリアで重視すること（個数）

	より良いお金を得る	競争に勝ち、社会的権威を得る	長期にわたって安定した給料で働き続けることができる	人から認められる	自分が成長できる	知識や経験をつけて、専門性を高めることができる	自分のビジョン(目標)や夢を実現する	やることの社会的意味や意義が強く感じられる	人や社会の役に立つ感謝される	世の中に対して新たな価値を生み出すゼロから創り上げる	その他	上記にはないわからない	計
15歳	80	7	76	55	73	32	69	32	70	10	6	1	511
16歳	249	31	230	141	191	94	176	102	212	46	5	8	1485
17歳	173	26	150	89	122	59	117	71	127	24	6	2	966
18歳	34	5	28	20	30	15	21	12	24	6	4	0	199
19歳	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	5

参考：アンケート回答結果

父親の学歴×将来のキャリアで重視すること（個数）

	より良いお金を得る	競争に勝ち、社会的権威を得る	長期にわたって安定した給料で働き続けることができる	人から認められる	自分が成長できる	知識や経験をつけて、専門性を高めることができる	自分のビジョン(目標)や夢を実現する	やることの社会的意味や意義が強く感じられる	人や社会の役に立つ感謝される	世の中に対して新たな価値を生み出すゼロから創り上げる	その他	上記にはないわからない	計
中学校	5	0	4	3	2	1	4	0	6	0	1	1	27
高等学校	141	14	113	71	109	46	94	41	108	23	3	2	765
高等専門学校	11	2	14	10	12	6	7	7	8	2	0	1	80
専門学校	36	4	30	18	24	14	16	12	30	5	1	0	190
短期大学	6	3	4	6	3	1	4	1	4	2	0	0	34
大学(4年制)	270	37	267	163	219	98	203	129	232	41	13	5	1677
大学院(修士号)	66	5	30	18	26	19	25	18	28	4	1	0	240
大学院(博士号)	16	4	13	6	12	11	15	5	8	5	1	0	96
その他	17	0	10	10	10	6	13	4	11	4	1	2	88

母親の学歴×将来のキャリアで重視すること（個数）

	より良いお金を得る	競争に勝ち、社会的権威を得る	長期にわたって安定した給料で働き続けることができる	人から認められる	自分が成長できる	知識や経験をつけて、専門性を高めることができる	自分のビジョン(目標)や夢を実現する	やることの社会的意味や意義が強く感じられる	人や社会の役に立つ感謝される	世の中に対して新たな価値を生み出すゼロから創り上げる	その他	上記にはないわからない	計
中学校	3	0	0	1	0	0	2	0	2	1	1	1	11
高等学校	120	12	109	67	99	35	69	35	91	15	2	1	655
専門学校	72	11	64	38	39	22	42	25	61	5	2	0	381
短期大学	98	14	81	58	91	42	73	37	72	19	4	3	592
大学(4年制)	220	30	209	128	172	89	170	109	190	40	9	5	1371
大学院(修士号)	19	2	14	12	12	12	18	8	15	4	2	0	118
大学院(博士号)	2	0	4	0	2	2	3	1	2	1	1	0	18
その他	4	0	4	1	2	0	6	2	2	1	0	1	23

目次

はじめに

調査研究の概要

調査研究結果の概要（要約）

インタビュー調査の結果（定性調査）

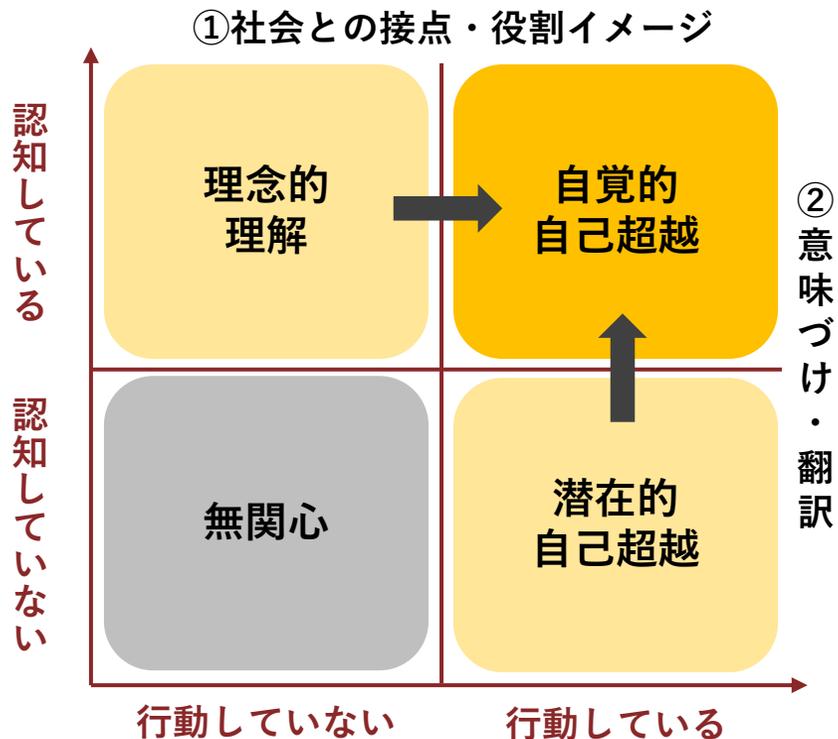
アンケート調査の結果（定量調査）

考察・提言

考察 | なぜ、若者は自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を意識していないのか。

若者に自己超越が「ない」のではなく、自己実現欲求と自己超越欲求が接合されていない。つまり、自己超越は欲求として自然に生じるものではなく、行為と意味づけの往復によって自覚されるものである

自己超越のモデル



縦軸：
社会的意義のある行動とは何かを認知しているか否か。
横軸：
社会的意義のある行動を実際に実践しているか否か。

自己超越欲求を自覚&実践するプロセスと条件

	プロセス	条件
パターン①	<ul style="list-style-type: none">社会的意義のある行動が何かを抽象的に認知しているが、具体的な行動に落とせていない状態から始まる。しかし、実際に社会的意義のある行動を行うようになり、自覚的に自己超越欲求を認識する。	<ul style="list-style-type: none">社会的意義ある行動を「具体的な役割・仕事」として想像できるか。「自らが社会において何者か」を考える機会があるか。
パターン②	<ul style="list-style-type: none">社会的意義のある行動が何かを認識していないが、無意識的に社会的意義のある行動が出来ている状態から始まる。その後、自らの行動が社会的に意義があると自覚ようになることで自己超越欲求を認識する。	<ul style="list-style-type: none">自らの行動が社会とつながっていると実感できる機会があるか。自らの行動の社会的意義を意味づけしてくれる他者がいるか

若者に自己超越が「ない」のではなく、自己実現欲求と自己超越欲求が接合されていない。つまり、自己超越は欲求として自然に生じるものではなく、行為と意味づけの往復によって自覚されるものである。

提言 | どうすれば、若者が自己超越（利他的動機×内発的動機）の欲求を持つようになるのか。

若者が自己超越（利他的動機×内発的動機）を新たに獲得するのではなく、自覚するために必要なアプローチは“自己実現と社会的意義の両立経験”、“事後的な意味づけ”、“評価者ではない翻訳者の存在”である。

1. 自己実現と社会的意義が両立する行為を経験すること

- 「楽しい・面白い」という内発的動機から始まった行為が、結果として社会と接続したときに自己超越が芽生える。インタビューでは、社会課題への関与が「評価のため」「やらされた」ではなく、「議論が楽しい」「気になったから調べた」という動機から始まっている事例が多かった。
- “正解のある社会貢献”ではなく、“自分の問いが社会とつながる経験”が重要ではないか。探究・課外活動で自己超越が見られた層は、社会課題を「正解探し」ではなく「視野が広がる問い」として捉えていた。
- 評価や成果が前面に出ると、行為は自己実現で止まりやすいのではないか。評価前提の活動では、行為は「自分ができることの証明」に収束し、社会への関心に転化しにくい。

2. 行為の社会的意味を事後的に言語化すること

- 若者は“社会のためにやっている”という自己認識を、事後的に獲得するのではないか。インタビューでは、「気づいたら社会のために考えていた」「あとから振り返って、意味があったとわかった」という語りが特徴的であった。
- 意味づけがなされない経験は、利他的動機に転化しないのではないか。「社会課題に触れる経験」でも、振り返りや言語化があった層は自己超越的学びがあり、なかった層は「やったが残っていない経験」に分かれている。

3. 意味づけを翻訳してくれる他者との関係を持つこと

- 若者に必要なのは「評価者」ではなく「意味の翻訳者」ではないか。インタビューで影響を与えた他者は、「すごいね」「正しいね」と評価する人ではなく、「それって、こういう社会的意味があるよね」と言語化してくれる存在であった。
- モデルケースは“真似る対象”ではなく、“部分参照する存在”になっている。若者は特定のロールモデルを全面的に模倣しない。「生き方」「価値観」「人柄」など、自分の価値観と共鳴する部分だけを参照している。

お問い合わせ先

早稲田大学デモクラシー創造研究所へのメール

<https://waseda-idi.jp/about/contact>

担当：島田 光喜（デモクラシー創造研究所 招聘研究員）

